

金 光 学 園

やっ なみ

2015. 3



241 号



卒業式





～SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイトの取組から～

金光学園は、今年度SGHアソシエイト校に指定されました。これを受け、国際化教育推進委員会のもと、国際交流クラブを発足し、中学1年生から高校3年生までの37名で活動をしています。今回は、「異文化理解」の取組として、12月に行ったクリスマスパーティーの様子をお伝えしたいと思います。

探究開発部長 田中 誠

国際交流クラブは昨年12月20日(土)、高校視聴覚音楽教室を会場にクリスマスパーティーを行い、学園生20数名と県内のALT約10名が参加しました。生徒は1ヶ月前から、司会、ゲーム、音響、飾りつけなど、それぞれの担当に分かれて準備をしました。

当日は生徒たちが準備したゲームだけでなく、岡山市内の学校でALTとして活躍されているMajo先生が、歌や体を動かすゲームを披露し、会場は大いに盛り上がりました。また、各グループ、各国のクリスマス事情について、お菓子やジュースを飲みながら英語での会話を楽しみました。中学生が発言に詰まる場面では、高校生がフォローしてくれるなど、中高一貫校の良さが存分に発揮できました。以下に生徒の感想を紹介します。

「同じグループの先輩からも新しい英語を教えてもらってとてもいい勉強になった。新たな場での交流が広がりとても楽しかった」(中1女子)

「外国の先生方と話したりゲームをしたりすることがとても勉強になりました。英語がさらに楽しくなった」(中2女子)

「生の英語を話すALTとの交流は自分にとって、とても刺激的な体験だった。これから大学で今まで以上に積極的な部分が変わってくると思うので、今回の経験を最大限に生かしたい」(高3男子)

国際化教育推進委員 久保田 光盛



笑顔で

宮口 智子

私は、笑顔で日々を過ごすことが、自分自身に勇気を与え、幸せに導いてくれるということを、理想ではなく実感しています。

これまでの親しい方々との出会いの中で、色々な方々のお話を聞く機会がありました。感動を与えるお話をされる方は、今までの人生において、何らかの辛い経験をされてきました。そのような経験をした方々は、人として豊かで魅力的に感じる面を醸し出していました。ずっと「幸せ」な人生を生きてきた方は稀ではないでしょうか。

人生の折返し地点を過ぎ、自分自身の過ぎ去った日々をよく振り返るようになりました。子供の頃から今に至るまでに苦難に出会った時、私を前へ前へと導いてくれたのは何かと辛い時、悲しい時に心では泣いていても、笑顔でいるようにしました。一人で居ると涙が込上げてくるので、勇気を出して人の輪の中へ入っていきましました。すると自然に、笑顔で語りかけてくれる人々に囲まれ、やがて心の底から笑顔になりました。だからこそ、今現在、「笑顔」で日々を過ごそうと心掛けています。また、私の笑顔が誰かの心を少しでも癒せればとても嬉しいことです。

今、親として子供達に望むことは「笑顔」で生きて行つて欲しいということです。これまでの過去、そしてこれからの未来において、辛い悲しい経験は幾度となく訪れるでしょう。その時「自分だけが何故」と思うでしょう。でも、心では泣いても笑つてほしい。うつ向かず、勇気を出して顔を上げてほしい。そうしていれば、時間はかかっても必ずあなたを心の底から笑顔にしてくれる日が来るから。笑顔で語りかけてくれる人に出会えるから。「笑顔」を信じて生きていってほしいです。

(金光学園やつなみ保護者会 副会長)

目次

| | |
|---------------|----|
| 巻頭言 | 1 |
| 第67回高校卒業式 | 2 |
| 道(1) | 28 |
| 活躍する卒業生…中務 定義 | 30 |
| やつなみ保護者会のページ | 32 |
| 会報 | 35 |
| 学園随想(2)…平田 玲子 | 36 |
| メタセコイヤ | 38 |
| 活躍おめでとう | 40 |
| 探究授業報告 | 48 |
| 中1合唱コンクール | 50 |
| 中2学年集会 | 53 |
| 生徒入賞作品 | 56 |
| ある日のホームルーム | 62 |
| A F S 留学生紹介 | 64 |
| 生徒会活動 | 65 |
| 学園だより | 74 |
| 教室の窓から…編集後記 | 76 |

第67回高校卒業式

式辞

校長 金光 道晴



ご来賓の皆様方には、ご多用のところをお練り合わせて、本日の高等学校の卒業式にご臨席を賜り誠にありがとうございます。平素から学園教育にご協力と、お祈り添えいたしておりますことも含ませ、心から御礼を申し上げます。保護者の皆様には、本日は誠に改めて

とうございます。お子様が新入生として入学してこられた3年ないし6年前も、過ぎ去つてみればついこの前のように思われます。保護者の皆様には、こうしてお子様が無事学園生活を終えて、今日の卒業式に臨まれることを感無量の思いでお迎えになられていることと存じます。改めまして入学以来、学園教育の全てにわたります、今日までいただいてまいりました、温かいご理解と格別のご協力に、心からの御礼を申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

さて、222名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は園生として最後の金光教本部広前への参拝をいたし、代表の加藤裕樹君が、これまで、あらゆる人や物のお世話になり、学園生活が送れ、成長させていただいたことの御礼と、それぞれの進路に向かって、ここから万事にお練り合わせをいただく

卒業式の概要

2月28日朝8時5分、卒業生222名は、金光教本部広前に学園生徒として最後の参拝をし、加藤裕樹さんが卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意を代表でお届けした。

第1部の式は、ほつま体育館にて10時に開式。金光学園歌斉唱の後、各クラス担任より卒業生が紹介され、金光道晴校長より代表の原田茜さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、佐藤乃武雄理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と前金光教教主のお筆になる学園の合言葉の色紙が代表の竹内達基さんに贈られた。さらに、金光教教務総長 岡成敏正氏（代理 布教部長 近藤金雄氏）の挨拶、浅口市長 栗山康彦氏の来賓祝辞送辞答辞と続き、最後に「蛍の光」を斉唱して第1部は閉会した。

ことのお願いの届けをさせていただきました。そして先ほどは卒業証書をいただくため、めでたく高等学校第67回卒業生になられたのであります。

さて、皆さんが高校3年生として迎えた今年度は本学園にとっては、創立120年という大きな節目の年で、この記念すべき年度に卒業して行くということは極めて意義深いことだと思います。きつと卒業して何十年たっても、記念事業としての「鼓童」によるあの迫力のある太鼓の演奏会や、20歳で病気のため片足を失うという困難を乗り越え、夢に向かって頑張っている佐藤真海さんの講演のことなどを忘れずに覚えていてくれるのではないかと思います。

私自身が、皆さんと最も深いつながりを感じておりますのは、毎週1時間の宗教の時間です。2学期の高校棟の耐震工事のため、宗教教室が使用できなかった時期には、国の登録有形文化財の指定を受けた11年前に建築された記念講堂で、板の間に座って授業を行いました。また、その記念講堂が使えないときは、完成したばかりの「二〇記念館」などの授業も行いましたが、私にとっても忘れ

られない1年となりました。宗教の時間は私としてはあくまで、本学園の建学の精神をどこまでも大切にしながら、人としての真実の生き方を求め続けたつもりではあります。内容の性格上堅苦しい時間であったと思いますが、よくもあのようになり、しっかりと話を聞いて下さったのだと、心から嬉しく思っております。

今卒業式にあたり、最後の宗教の時間のつもりで、また今日は最後の学園教育の場として、皆さんに次の言葉を贈りたいと思います。それは「おかげは和賀心であり」という言葉であります。「おかげは和賀心であり」の「わがころ」という言葉を耳で聞けば、私の心、私の心と受け取りますが、漢字で書くと、「わ」は平和の「和」、「が」は祝賀とか賀正の「賀」の字が当てられています。

このステージ上に「天地書付」の額が掲げられていますが、金光教の教祖様の言葉で、この3行目にも「おかげは和賀心であり」という言葉が示されているのであります。実はこの平和の「和」と祝賀の「賀」を使った「和賀心」という言葉は、国語辞典や広辞苑にも漢和辞典にも載ってはいません。しかし、意味内容

第2部の祝宴は、会場を小体育館に移して行われた。ほつま同窓会会長 山本雅夫氏から同窓会入会の歓迎の言葉、卒業生保護者代表 小林智恵美氏より記念品目録贈呈（コンピュータ教室生徒用パソコン45台）、2代校長 佐藤金造先生作詞の「若き人よ」の斉唱の後、お祝いとして、音楽部コーラスが「友よ旅立ちの時」を、音楽部吹奏楽団が「サザンオールスターズメドレー」を卒業生の部員も交えて演奏した。塩路哲也君の先唱で食前訓を唱え会食。歓談の後、衆議院議員 木道義氏と橋本岳氏、さらにやつなみ保護者会会長 中谷庄吾氏からそれぞれお祝いの言葉があった。そして学園生活の6年間ないし3年間を振り返る「あしあと」が高3学年団を中心に上演された。鈴木公子、天野浩美の両先生が司会として写真とナレーションで入学式、キャンパス、修学旅行、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思い返した。終わりに、保護者代表の高見美香氏、卒業生代表の平松佳乃子さん、学校代表の佐藤正俊副校長よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。

は当てられた漢字の意味の通り、「和らぎ喜ぶ わが心」であります。

考えてみれば人は様々な感情や心の働きを持つており、喜ぶ心や元気な心もありますが、反対に悲しみ、苦しみ、怒り、心配などの心も起ってきます。私達は自分でどうすることもできない困難なことや残念なことに会おうと挫折して、心がくじけそうになってしまいます。しかし、教祖様は悲しみや憎しみ、心配や怒りの中には良いものは生まれてこないと言われるのであります。良いもの、つまりおかげは和らぎ喜ぶ心の中にこそ生まれてくると言われるのであります。

また、「わが心でわが身を生かすこともあり殺すこともある」「おかげを受けられるか受けられないかは、わが心にある。わが心さえ改めれば、いくらでもおかげは受けられる」とも教えられています。しかし、そう簡単にいつでも誰にでも「和らぎ喜ぶ」を持つことができるわけではありません。

人間の心についても、金や銀の玉を磨くように、心の玉を磨かなければならぬ。鉄の玉でも磨けば銀のように見えるが、金銀も磨かなければ、光らない。光

らなければ石や瓦のごとしと言われます。私は心を磨くということは、日々心を改め、思い返していくことではないかと思っております。

「にちにちがさら」という言葉は、日々新たにという意味ですが、にちにち起ってくる心配や苦しみや怒りの心を思い返し、改め直していくことによって、喜ぶ心や頑張ろうとする心を持つことができようになると思うのであります。どうぞこれからの人生において、いつも自らの心を磨き「和らぎ喜ぶわが心」を大切にしていただきたいと思います。

皆さんがそれぞれこの学園生活の中で、多くのことを学ばれ、成長し、そして今後の人生への礎をしっかりと築いてこられたことを私は確信しています。勉学はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、人として大切な心を身につけることができたと思っております。人は、人間関係の中で成長していくことができるものです。共に育ち、共に歩み、共に生きる生き方を大切にしていっていただきたいと思うのであります。

皆さんは今日この学び舎を巣立ち、大学や社会に出て行くわけですが、

これからの生活は、これまでのようないつも温かい支援や援助のあるものではないかもしれませんが。大きな試練や、越えなければならぬ高い壁、そして解決していかなばならない問題にぶつかることもあると思います。しかし、困難なことにもぶつかった時、一人で抱え込むのではなく、多くの人たちに祈られ、支えられていることを忘れないで下さい。

そしてどうぞ「和らぎ喜ぶ心と和賀心」を持ち、合言葉「人をたいせつに自分をついに物をついに」をいつまでも母校の心として忘れずに、賜った尊い



命を大切にし、その命を輝かせて進んでいってください。皆さんの御健勝とご多幸を心からお祈りし、式辞といたします。

送 辞

在校生代表 田邊 詢



厳しい冬の寒さも和らぎ、うららかな春の暖かさが感じられるようになりました。本日、卒業を迎えられた先輩方、誠におめでとございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。先輩方と過ごした日々を思い返すと、時の流れの早さに驚かされます。私たちが在校生にとって、先輩方と過ごせた時間は本当に貴重なものでした。

先輩方は学習面では、毎日の希望者補習に積極的に参加されたり、新たに始まった自習室を利用されたりして、部活の後も遅くまで勉強しておられました。その姿から、私たちは日々の努力の大切さを学びました。また探究学習活動の一環として、全国規模の様々な発表会にも積極的に参加され、「集まれ、科学好き発表会・きらり科学の日賞」、「SSH生徒研究発表会・科学技術振興機構理事長賞」、「日本学生科学賞奨励賞」、「坊ちゃん科学賞研究論文コンテスト入賞」など多くの賞を受賞され、輝かしい功績を残されました。

先輩方は行事にも本気で取り組まれました。ほつま祭では1年生の時に展示の部で2位と3位を獲得され、2年生の時には、演技の部で1位と3位、展示の部で2位を獲得されました。工夫を凝らした展示や、独創的な演技で、見る者を惹きつける素晴らしいものでした。

体育会でも素晴らしい団結力を私たちに見せて下さいました。先輩方のひたむきに頑張る姿勢と、仲間を応援する強い絆に、私たちは圧倒されるばかりでした。部活動でも輝かしい結果を残されまし

た。運動部では、バレーボール部、陸上競技部、卓球部が中国大会・全国大会への出場を果たし、また、ラグビー部・柔道部は中国大会へ出場されました。野球部は1年生大会において優秀校となったことに加え、毎日の清掃活動が評価され、岡山県備中国民局と浅口市長から表彰を受けられました。また、ハンガリーで開催されたパワースタッフ世界選手権大会に日本代表として出場し、6位入賞という快挙を達成された先輩もいらっしゃいました。

文化部でも、音楽部コーラス、放送部、囲碁将棋部が全国大会に出場を果たし、写真部は全国規模のコンテストにおいて入選し、書道部も全国競書大会において入選しました。さらに、音楽部コーラスは施設訪問などの取り組みが評価され、玉島警察署から善行表彰を受けました。また、音楽部吹奏楽団は定期演奏会で、音楽部コーラスはサマーコンサートで、最高の笑顔と全力のパフォーマンスを繰り広げ、会場を感動の渦に巻き込みました。また、美術部は昨年、教祖生誕200年の看板を製作し、境内下にかかげ、多くの参拝者の方々に喜んでいただきました。

私たちはこのような先輩方の姿をしっかりと胸に刻み、また後輩達に胸を張れる立派な金光学園生になれるよう、先輩方を目標にしてこれからも頑張っていこうと思います。

さて、金光学園は今年度創立120年を迎え、多くの記念行事が行われました。その中で特に印象に残っているのは、パラリンピアン佐藤真海さんの講演です。佐藤真海さんは中学校から陸上競技を始め、中学・高校時代には毎日の練習と勉強との両立に努め、第一希望の大学に入学されました。これから新しいことに挑戦しようという時に病気になる片足を失うという、私たちには想像もつかないような大きな壁に直面されました。しかし、彼女はそこでくじけたのではなく、また新たな目標を持って、陸上競技をスタートさせるといふ道を選択されました。勇気をもって新たな一歩を踏み出されたのです。講演の中でおっしゃられた、「神様は乗り越えられない試練は与えない」、「今を大切にし、限界という蓋を外して挑戦しよう」という2つの言葉が特に心に残っています。私たちも自分の可能性を信じて、どんな事にも挑戦していこう

と思います。

今日晴れてご卒業される先輩方にとって3年間という学園生活は短く感じられただけではないでしょうか。それはきつと勉強や部活動などで忙しいけれども充実した日々を過ごされたからだと思います。そして、たとえ辛いことがあっても仲間と共に励ましあって一生懸命、前へ前へと突っ走ってきた3年間だったと思います。これから始まる新しい生活でも、最後まで挑戦することを諦めず、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」の合言葉を胸に、未来へ向けて前へ走り続けてください。

先輩方は行事や部活動を通して私たち後輩を優しく、時には厳しく導いてくださいました。上手くいかず悩んでいるときには励ましてくださいました。先輩方との思い出を語ればざりがありました。卒業生の皆様は、いつまでも名残りは尽きませんが、在校生一同、心からお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 徳原 真奈美



冬の寒さも和らぎ、日ごとに春の兆しを感じられるようになりました。本日は私たちのためにこのような盛大で心のもった卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。思い起こせば、大きな夢と希望に胸を膨らませて校門をくぐった日のことがつい昨日のこのように感じられます。以来、私たちは勉強や部活動、学校行事などを通じて様々な経験を分かち合い、互いに切磋琢磨しながら歩んできました。そして今日、晴れて卒業の日を迎えることとなりました。ご来賓の皆様をはじめ多くの方からお祝

いや激励のお言葉をいただき、卒業生一同心より御礼申し上げます。

思い返してみると、私たちが入学した2012年4月は、日本中が東日本震災の影響でとても沈んだ気分でした。震災からの復興や原発事故のことなど、いったい日本はどうなっていくのか心配や不安な気持ちでいっぱいでした。しかし震災から4年経った今、ソチオリンピックでの日本人選手の活躍や東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したという明るいニュースは日本中に元気を与えました。さらにみなさんもご存じのように、青色発光ダイオード実用化の功績によって、日本人科学者三氏がノーベル物理学賞を受賞されました。この開発により光の三原色がそろい、白色発光ダイオードが作られるようになりました。スウェーデン王立科学アカデミーは「20世紀は白熱灯が照らし、



21世紀はLEDが照らす。」と選考理由を説明しています。私たちが学んだ教室の照明も、従来の蛍光灯から順次ダイオードの照明に取り換えられています。この研究の先駆者の存在の赤崎教授が目した「窒化ガリウム」という物質は、当時の理論では青色発光ダイオードに必要な結晶を作ることができず、世界中の研究者が「未来が無い」と手を引いていた材料でした。それでも赤崎教授はその利点にこだわり、

「我一人荒野を行く。たとえ一人になってもやめようと思わなかった」と

当時の心境を語っておられます。実用化までにはおよそ20年の歳月を要したわけですが、人生をかけて先の知れない研究に取り組み強い信念と不屈の精神から、私たちが学ぶべきところがたくさんあるのではないのでしょうか。

さて、今年度金光学園は創立120年を迎えました。これもひとえに今まで金光学園の伝統を培ってこられた先輩方や先生方のおかげであり、卒業を機に自分たちもその歴史の一端を担うことができたことをとても嬉しく思います。昨年行われた創立記念式の記念講演では、パリリ

ンピアンであり東京五輪誘致の立役者となった佐藤真海さんに講演をしていただき、大変有意義なお話を聞くことができました。真海さんは、早稲田大学の応援部チアリーダーズに所属していました。自身が19歳の時に骨肉種と診断され、右足の膝から下を失いました。しかし、彼女は退院の3日後には大学に復学し、自分で調べた障害者スポーツの施設を訪れ、プールで泳ぐことから運動を再開したそうです。そしてその後陸上競技に転向、約1年でアテネパラリンピック出場という快挙を達成します。この話を聞いて、皆さんはどう思いましたか。私は、自分の身に起こった悲劇的な出来事乗り越えて、新しい自分を切り拓くことができる彼女の強さにとても感動しました。私たちは、これからそれぞれの道へ向かって『飛躍』したいと願っています。しかし、『飛躍』するうえで大切なのは、飛び立つ瞬間よりも、その前の『助走』だと思っています。私が中高6年間取り組んできた陸上競技においては「悪い助走から良い跳躍は生まれません」と言われています。スタートを切り、スピードを上げていってトップスピードになった瞬

間、全力で飛び出さないと力強く跳ぶことはできません。その点で真海さんは自分の身に起こったアクシデントに屈することなく『助走』を続け、見事に『飛躍』しました。赤崎教授の20年間に及ぶ地道な研究も、今日の榮譽を得るまでの長い『助走』であったように思います。金光学園での学生生活は、上手いかわいこともたくさんありました。他人と協力することの難しさ、勉強で悩んだこと、すべてが今となっては私たちの糧であり次へ向かっての『助走』です。この学園で学んだことを胸に、私たちもそれぞれの夢へ向かって『飛躍』していきたいと思っています。

在校生のみなさん、どうか残りの学園生活を悔いの無いよう過ごしてください。人との関わりや、いろいろな場所での経験は一期一会、その時にしか出来ません。その中には苦勞や困難もあるはずです。しかし、みなさんには仲間がいまいます。人は一人でいるようでも決して一人ぼっちではありません。様々な人たちに支えられて今の自分があることを忘れず、感謝の気持ちを持って毎日を過ごしてくださいと思います。

私たちは今日を以て金光学園を卒業し、それぞれの道を歩き始めます。そこには不安もありますが、それを上回る期待もあります。時には困難なことから逃げ出したくなるかもしれませんが。しかし、私たちは金光学園で過ごした時間を心の支えとし、学園の合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の精神を忘れることなく前へ進みたいと思います。最後になりましたが、今までお世話になったすべての方々に深く感謝の意を表すとともに、伝統ある金光学園の更なる発展を願い答辞とさせていただきます。



答辞・送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3 大本 京末 徳原真奈美

青田なな子 渡邊 祥代

仁科華菜子 高田 淳平

川崎 貴乃

◇送辞起草委員◇

高2 小幡 咲貴 川上 百代

馬場絵莉香 二宮 啓輔

酒井 萌 中野 一志

岡本 瑞希 岡本 唯

高1 佐藤 茜胡 田邊 弥希

有木 裕貴 三宅 一広

土肥 翼 土屋 昌希

田中 啓右 堀 晃己

卒業を前に思うこと

最高の時間

1組 奥村 妙子

私が金光学園で過ごした6年間は本当にあつという間でした。入学当初は、友達ができるか、とても不安でしたが、すぐにたくさんの方の友達に恵まれ、充実した日々を送ることができました。体育会やほつま祭などの行事では、一つの目標に向かってみんなで力を合わせ、絆や団結力がより強くなりました。

部活動では、中1から高3までの6年間音楽部コーラスに所属し、毎日練習を重ねていく中、仲間の大切さや続けることの難しさなど色々なことを学ぶことができました。そして、たくさんの方の部長と力を合わせて創り上げる舞台は、最高なものであると感じました。しかし、部活動を続けていく中では、辛くて辞めたいと思ったことも何度ありました。そんな時には、顧問の先生方や先輩、同級生、時には後輩が励まし、支えてくれま

した。この仲間の支えがなければ、私は部活動を続けることができなかつたと思っています。最後のステージを終えたときの喜びや感動は、この先ずっと忘れることはありません。

これから私たちはそれぞれの夢に向かって、新しい日々を歩んでいきます。6年間の思い出がつまった金光学園を卒業するのは、とても寂しいですが、しっかりと一歩一歩前に進んでいきたいと思えます。もちろん苦しくてくじけそうになることもたくさんあるでしょう。しかし、そんな時には楽しかった金光学園を思い出し、また頑張りたいと思います。

最後に、今まで支えてくださった先生方、いつも助けてくれた家族、たくさん笑いあつた最高の仲間、お世話になつた全ての方々へ感謝しています。本当にありがとうございました。

今後の目標と感謝の気持ち

2組 神原 理沙

私が金光学園と出逢つてから、もうすぐ6年の月日が経とうとしています。その中で、私はかけがえのない友人を得、よいご指導をしてくださる先生方、自分のことを慕ってくれている可愛い後輩たち、沢山の人に出会うことができました。そして、一生かけてやりたい夢も見つけることができました。私はこの夢に一歩ずつ近づいていることがとても嬉しくて、今後の大学生活への期待で胸がいっぱいです。

そんな私の将来の夢は、大好きな韓国で日本語教師になること、それを通して日本と韓国との架け橋となるような人物になることです。元々韓国が好きだったということもありますが、きっかけは韓国へのホームステイで出逢つた、日本語教師をしている日本人女性の方に憧れを抱いたことと、日本について学びたいと

熱心に勉学に励む学生たちの力になりた
いと思ったためでした。夢を叶えるには
多くの課題があるとありますが、マイナ
スなことは考えたことはありません。ど
んな苦も喜びに変わるほど、将来が楽し
みで仕方ないからです。今後は、より一
層勉学に励もうと思います。

最後に、いつも傍で支えてくれた大切
な友人へ。沢山ケンカをして、沢山笑っ
たあの時があるから、かけがえのない
「今」があります。私にあったよい出来
事を、自分の喜びのように涙を流して祝
ってくれたこと、一生忘れません。これ
からも頼りにしています。

次のステージでも新たな出会いが待っ
ていると思いますが、一つ一つの出会い
の縁を大事にしていこうと思います。今
まで多くの人にお世話になりました。本
当にありがとうございます。

私が出たもの

3組 間部 伸啓

私は、金光学園に入学してからの3年
間で多くのことを得ることができまし
た。その中でも、自分の将来の礎になっ
たことが二つあります。



一つ目は、自ら勉強をするという事
です。私は中学の頃は、全然勉強をして
いませんでした。しかも、そのことに関し
て危機感が全くありませんでした。しか
し、金光学園に入ってから中学の時と
同じようにしていると、小テストや定期
テストで赤点をとってしまい、補習にか
かることが度々ありました。私は、硬式
野球部に所属していましたが、この補習
によって練習に参加できないことがよく

ありました。補習を受けることより、練
習に参加できないということは私にとつ
て苦痛でした。その為、嫌々でしたが、
小テストや定期テストの勉強を頑張るこ
とにしました。すると、少しずつですが
成績が上がっていき、3年生になってか
らはテストの勉強をするのが楽しくな
り、補習のことなど考える必要もなく、
自分でも納得のいく点数がとれるよう
になりました。野球をしたという一心で
頑張った勉強ですが、これからもこの姿
勢は変えずに続けていこうと思います。

二つ目は、仲間との絆です。私たちの
学年の野球部員は人数が一番多く、42人
いました。人数が多いと問題も次から次
へと出てきますが、その問題を乗り越え
ると、結束力がとても高まりました。ま
た野球部の冬の練習は、大変厳しいです
が、苦しいとき、仲間と励まし合ってや
り遂げることができました。甲子園出場
という目標は達成することができません
でしたが、学園の野球部の仲間に出会
たことに私はとても感謝しています。こ
の仲間は、これからもずっと大切にして
いきたいです。



「卒業」を前に

4組 浅井 光

この金光学園に入学してからの6年間には私にとって忘れられない大切なものとなりました。

私は兄と同じ学校に行きたい、という思いでこの学校を受験することになりました。小さい頃から、ほつま祭や体育会を見に来ていて、明るく自分達で盛り上げ

る学園生の姿に憧れを抱いたからです。必死で勉強した結果、合格することができとても喜んだことを今でも覚えています。

入学当時は知り合いがおらず不安しかありませんでした。しかし同じクラスの人が声をかけてくれたり自分から声をかけたりして徐々に友達をつくることができ、いつの間にか不安はなくなっていました。学園生活では、楽しかった思い出の方が多くですが、辛かったり悩んだりした時期がありました。特に、ほつま祭や体育会等の行事の時です。今まで客として楽しむ側だった私が今度は楽しませる側となり、どうしたら楽しんでもらえるのか色々と考えたり慣れない衣装作りをしたりしました。自分の思うようにいかないことがあり、何度も悩みました。そんな時、何度も相談に乗ってくれ、支えになってくれたのは、先生方やいつも一緒にいる友達でした。優しさや温かさに触れ、改めて存在の大きさに気づきました。そして、一つの大きなものを作り上げるこの大変さを知る反面、皆と一致団結してやり遂げることで、この上ない達成感があり、絆をより深めることが

できました。

私は金光学園に入学して本当に良かったと思います。「出会い」「絆」等大切な思い出をくれたからです。でも、とうとう「別れ」の時が来ました。学園生であったことを誇りに思い卒業します。皆、それぞれの道を自分らしく進んでいこう。

最後に、先生方や家族、そして友達に迷惑をかけてしまったことでもあります。が、今まで本当にありがとうございました。

夢に向かって歩む

5組 中村 庸子

卒業を前にして、金光学園で過ごした日々を思い返すと、様々な経験をした6年間だったと思います。私の過ごした6年間は、本当に楽しい思い出いっぱいです。しかし、辛いこともありました。

中学生のときのことです。私は部活動のことで悩んでいました。人は、他人の心の状態を知ることができません。その人にとっては、何でもないことだったのかも知れません。しかし、私にとって信頼していた人から言われた言葉は、今で

も心の傷となって残っています。今思い返しても、悔しさでいっぱいです。

その時暖かい手を差し伸べてくれた人がいました。私の心の傷は、友達や家族、先生方のお蔭で少しずつ癒えて行きました。特に、高校から仲良くなった友達は、かけがえのない友達となりました。今までにあった辛いことなど、どんなことも話すことができ、私が再び人を信じることができるようにしてくれた友達です。この友達とは、これからもずっと付き合っていくと思います。また、なかなか進路について決断できない時など、相談に乗って夢を叶える大学へ背中を押してくださった先生方にも出会うことができました。

これから大学に進むと、今まで傍に当たり前にいた人達がいなくなってしまう。夢に向かって背中を押してください。先生方、かけがえのない友達、支えてくれた家族、金光学園への感謝の気持ちを胸に、夢に向かって歩んで行きたいと思います。

ホームルーム

6組 福島 悠歩

卒業を目前に、私は高校生活3年間を振り返りました。勉強にクラブ活動、校内行事など、数々の思い出がよみがえってきました。その中でも、ある日のホームルームの出来事が最も印象に残っています。

高校2年生の1学期、クラスでは「高校生活最後のほつま祭だから演技に参加しよう」と盛り上がっていました。しかし、演技で申し込んだクラスが多く、抽選会があった日のホームルームで、代表で抽選に行った友達から「くじに外れ、演技での参加はできなくなりました」と聞かされました。その瞬間、みんな、残念な気持ちでいっぱいになりました。しかし、抽選を担当した仲間が責任を感じて泣いている姿を見てすぐさま、クラス全員が「私がかくじを引いても外れてたよ」、「仕方がないよ」、「展示で1位を取って見返そう」など、次々に声をかけていました。それまでは、クラスみんなで協力して何かに取り組んだことがなく、意志や気持ちはバラバラでしたが、このことがきっかけで、初めてクラス全員が1つの目標

に向かって協力し合い、努力しました。結果は2位でしたが、展示の準備から片付けまで、みんなの顔が輝いていたのを覚えています。

あの日以来、私達のクラスはどんな時でも、特に大変な時こそ助け合いながら今日の卒業の日まで過ごしてきました。これから先、何か壁にぶつかった時、このホームルームでの出来事を思い出し、頑張る糧になります。

最後に、この場を借りて、今まで不器



用な私を育ててくれた家族、つらい時に支えてくれた仲間、温かく見守ってくれた先生方に感謝いたします。本当に、ありがとうございました。

充実した学園生活

7組 遠藤 涼平

様々な不安を抱き学園に入学した日からの6年間、僕はたくさんのことを経験しました。正直言うと、金光学園での生活は苦しかったです。楽しいこともありませんでしたが、苦しいことのほうが多かったように思います。中でも、バレーボール部での経験は、辛いことばかりでした。僕はチームの足を引っ張りたくないと思い、毎日必死に練習しました。しかし、何度もミスをしてしまい、先輩たちの足を引っ張ってしまうばかりでした。思うような結果が出せず、涙を流したり、監督から、「お前のせいで負けたんだ」と言われ、何度もバレー部を辞めようと思ったことがあります。しかし、高校3年生の夏、6年間目標としていた全国大会へ出場することができました。県大会決勝、最後の1点が決まったとき、今までの苦しかったことなど、もうどうでも

よくなりました。とにかく嬉しかった。あの時の感動は、今でも鮮明に覚えています。僕にとってかけがえのない思い出になりました。

「努力は嘘をつかない」ということをバレーボールを通じて学ぶことができた。そして、僕が最後までバレーを続けたら、全国大会に出場でき、充実した金光学園生活を送れたのは、たくさんの人たちの支えがあったからです。家族をはじめ、指導してくださった先生や先輩方、毎日共に厳しい練習を耐え抜いてきたチームメイト、そして、多くの援助をしてくださった方々。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、これから新しい生活が始まります。金光学園で経験したんだことを十分に活かし、充実した生活が送れるように頑張っていきたいと思えます。6年間、本当にありがとうございました。



家族にも感動をくれた学園生活

1組保護者 大本 幸江

まだ幼かった娘が、「金光学園に行く」と言ったことが、つい先日のように思われます。合格通知に家族で喜んだあの日から早いものでもう6年。娘はたくましく成長していました。暑い日も寒い日も自転車で駅まで立ち漕ぎで出発、たくさんの宿題と一緒に帰宅。お箸と鉛筆を交互に持ちながら漢字の練習をしているなんて光景もよくありました。時には落ち込んでいた日もありましたが、朝になると「行つてきま〜す」という声に、私自身も「今日一日がんばろう」と励まされたものです。

かけがえのない友達、先輩、後輩にも出合え、放送部・茶道部・文芸部・生徒会事務局にと、どの活動もそれぞれ楽しそうで、キラキラと輝いて見えました。ご指導していただいた先生方には深く感謝しております。茶道部では、後楽園で行われる茶西茶会等、すばらしいお茶会に着物姿で連れて行っていただき、日常生活では触れることのないような伝統文化の世界に触れる機会を得ることもできました。

探究クラスでは、漢字テスト平均点百点を目指す等々、その目標の高さに驚かされました。娘もクラスの目標に加え、その都度自分なりの課題を課し、勉学に励んでいたようです。

ほつま祭の劇や体育会のリレーなども学校行事で様々なことに常に本気でチャレンジする生徒たちの姿には、家族誰もが心揺さぶられ、感動しました。

先生方にお導きいただき、たくさんの友達に出会えたこの金光学園での経験をこれからの人生の支えにして、未来へ向かって一歩ずつ前へ進んで行くと思っております。

6年間お世話になりました全ての方々に感謝いたします。育てていただき本当にありがとうございます。

子育ては自分育て

・金光学園から多くを学び

親子共々大きく成長

2組保護者 西村かおり

今子供達はセンター試験会場で鉛筆を走らせている真っ最中、その様な時だからこそ、あえて「卒業を前にしての思い」というテーマに純粹に向き合えんと考え

私も鉛筆を走らせている次第です。

思えば過日の三者懇談の際、担任の先生が「月日の流れは早いですね。こうした面談も最後、後3ヶ月で学園からの巣立ちですね。」としみじみと天井を見上げて仰るのに対し「何の事だろう。」と全く実感が湧いてこず「卒業」という言葉すら脳裏を過る事はありませんでした。呑気な親だと自分自身思いましたが、別の見方をすれば、それだけ金光学園が我家にとって空気の様な存在で、子供が通学している事が当たり前の日常風景となっていたという事でもあります。子供が中2から今までずっと皆勤だった事か



らも後者の視点は当たっているでしょう。

子供は苦しい事もあるが、学園生活が楽しすぎて仕方がないと日々申しております。それも学園の先生方、友達（先輩、後輩含む）、保護者の方々、歴代の卒業生、等々学園に関わる全ての皆様のお陰だと心から感謝とお礼申し上げます。

中学校では、部活と学業の両立に親子で苦しんでいた時、担任・学年団の先生方、部活顧問の先生が相談にのってくださり、良い方向に導いてくださいました。

高校では、3年生の学級通信『ニコニコ2組（第1号）』の言葉「受験は団体戦だとよく言われます。この1年このメンバーで様々な事を共有し、来年の春みんな笑顔で卒業の日を迎えられる様に共に歩んでいきましょう。」が、心に響き親子を成長させてくれました。冒頭に「子供」ではなく「子供達」と自然に表現できた事からも、親も成長している事を具体的に実感できました。

最後に学園生活を共に過ごし、共に巣立つ皆さんに『青春時代（森田公一作词作曲）』の一節「青春時代が夢なんて後からほのほの想うもの♪青春時代の真ん

中は道に迷っているばかり♪」をはなむけの言葉として送ります。但し、向上心がある限り人は一生青春と真ん中です。

金光学園ファミリィ

3組保護者 藤井 万里子

「金光学園に入って本当によかった。」今まで何度も娘は口にしてきました。親として、こんなにうれしい言葉はありません。私たちにとつても本当に楽しかった6年間でした。

思えば入学当初、体力もない小さな体で入部した音楽部吹奏楽団。

ついていけるかな？大丈夫かな？そんな親の心配をよそに一生懸命やり抜いてくれました。中学では、先輩についていく事で精一杯でしたが、高校では、幹部学年になり、多くの部員をひとつにまとめる難しさを感じ、帰りの車の中で涙する事も少なくありませんでした。親としては、声掛けしできませんでした。壁を乗り越えようとする娘の姿は、とても遅く見えました。これも、先生方や部員の皆さんの支えがあったからこそだと思います。

金光学園の教えである、「人を大切に

自分を大切に 物を大切に」にあるように、一人の存在を大切に指導していただき、同級生の友達からも手を差し伸べてもらいました。これは、子どもだけでなく、保護者としても同じで、PTA活動や保護者会においても、皆さまから支えていただきました。親子とも素晴らしい皆さんとの出会いにとても感謝いたしております。

今後は金光学園ファミリィとして、学校の更なる発展をお祈りしますとともに、金光学園で培ったことをこれからの人生に活かして、いつか学校に恩返しが出来る日を楽しみにしたいと思います。楽しかった6年間で本当にありがとうございました。

人を大切に

4組保護者 沖田 真子

金光学園に入学して間もない頃の保護者会で、校長先生が、学園の合い言葉「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」は、一番大切にしたい自分と真ん中に入れてあるのですと言われました。そして、自分を大切にすれば、まわりの人も大切にできるのですと話してください



ました。そのお話を聞いて、私は合い言葉の本来の意味を知り、同時に、自分を大切にするとはどういうことなのだろうと考えるようになりました。

学園生活の中で、人との関わり方や物の扱い方など、どうしてわが子はこんなに不器用なのだろうと心が重くなることがありました。トラブルがあった時など、わが子の説明は、いきさつなど肝心な部分があいまいなため、話の要領を得

ず、がつくりきて先生に詳細をお尋ねしたこともありました。その一方、ほつま祭での舞台発表で長いセリフをいつの間にか覚え、堂々と演技する姿に、体育会で友達と旗を大きく振りながら応援する姿に、幼かった頃からそれまでの成長を思い、何度も涙がこぼれました。主人と「わが子がこんな風に学生生活を送れるなんてありがたいことだね。」とよく話しました。

私は、自分を大切にすることは、自分の心を満足させることではないかと思うのです。そのためにはささやかなことに感謝できればよいのだと。学園生活の中で、折に触れわが子の成長を感じ、それをありがたいと思うことができ、私の心は本当に満たされました。そして、まわりの子たちの成長もわが子のそれと同じようにうれしく思えました。自分を大切にするとまわりの人も大切にできると実感できたのです。私たち親子を心豊かに育んでくださり、ありがとうございます。

「感謝」

5組保護者 出原 清美

30数年前にお世話になった、主人の大

切な母校金光学園への入学が決まった時、家族で大喜びしたのが昨日のこのようです。当時テニス部顧問でいらした前校長佐藤元信先生に「息子がお世話になります」とごく自然に電話をかけ、「生徒でしかない主人が当時の話で先生と盛り上がる様子を見て、伝統、歴史があるだけでなく先生方の温かさもすぐに感じ取れ、金光学園に親子で縁を頂いたことに心から感謝したものです。合言葉の「人をたいせつに 自分をたいせつに」をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」に始まり、学園の教えは生徒だけでなく親にとっても心を打つものばかりです。特に、「ちはははも子どもとともに生まれたり 育たねばならぬ 子どもちはははも」は思春期真っ只中、理解不能の子育ての中、何度励まされ勇気付けられたことでしょう。子どもと共に少しずつ少しずつ成長させていたできました。

金光学園の行事を見に行くことも楽しみました。行事という行事に手を抜かず、子ども達でこんな立派なものを作り出せるのかと目を見張るものがありました。体育会のチームの応援に作る巨大なマスコット…。あれは裏山の竹を50本ほ

ど切り出し、自分たちで裂いて細い竹ひごを作る所から始まるのだと聞いた時の驚き！ほつま祭の演劇で舞台で堂々と立ち回り、小体育館中響きわたる大声で台詞を言う我が子の初めて見る立派な姿に「将来俳優になれるよ!!」と感激したり…。

部活動では6年間バスケット部でお世話になりました。息子にとっては金光学園イコールバスケット部とわかっていい程全力で取り組む日々でした。どうしてそんなに頑張れるのかと思う程、朝練、午後練、土日の練習や試合、遠征など休むことなく心身に鍛えてもらい一度も弱音を吐かず、部のメンバーと共に喜び、悔し涙を流しました。体が悲鳴をあげ、何度となく入院、手術も経験しましたが、全てのことの一つの無駄もなく強い一本の芯を作ってくれ、信じる道を決め流される事なく進路を決めた事にもつながったと思っています。

校長先生をはじめ諸先生方、部活の先生方、先輩、後輩、同級生 皆々様に感謝いたします。ありがとうございます。

感謝を

6組保護者 高見 美香

「かあさん、腹が痛い。前の時と似ている。」センター試験5日前の朝です。再発？どうしよう…。手元の洗濯物をたたみ直しながら『落ち着け、私。』と言いつけながら、頭の中をぐるぐると様々な思いが駆け巡っていました。

虫垂炎でそのまま入院、手術。2日で退院となりました。担任の鈴木先生をはじめ、学年団の先生方には大変ご心配をおかけいたしました。迅速な対応にどれだけ心救われ安心できたことか、本当に感謝はつきません。ありがとうございます。

万全でなくも無事センターを終え、彼は希望の進路にいけるだろうか？今はまだわからないけれど。何処に居ても彼らしく暮らしていけると信じています。良き先輩に出逢い、友人と師と、様々な経験を重ねて、「生きる力」は確実に彼の内に育っています。

初めて学園を訪れた学校説明会の日、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」と書かれた額がどの教室にも飾ってあると、瞳を輝かせた姿を

今も覚えています。

入学して多くの行事で楽しんでいる姿や努力している姿を見ることができ、親として沢山の幸せを感じることができました。子供達、私達のもとに生まれてきてくれてありがとう。

学年保護者の皆様、多大な協力のもと一緒に成長を見つめ共有し合えた時間は、私にとって短いと感じる程充実した日々でした。ありがとうございます。

学年を越え、すばらしい出逢いも沢山ありました。出逢えた全ての方々に感謝しています。まだまだこれから長い人生です。健康管理し、思いやり、感謝の心を忘れず、歩んでいきたいものです。育たねばならぬ 子もちははも

全ての方々に感謝

7組保護者 遠藤 真由美

6年前、活き活きと充実した毎日を送る長男の姿を追うようにして受験した次男が、とうとう卒業を迎えようとしています。私たち両親にとっても、次男の卒業はたいへん感慨深く、寂しさを痛切に感じています。

思い起こせば8年前、私たち両親の反

対を押し切つて、バレーボールと勉強の両立を目指したいと金光学園の受験を勝手に決めた長男。合格証書を手にして喜んだあの日から、親子の学園生活が始まりました。全く性格の違う兄弟を比べることもなく、それぞれの個性を見事に伸ばしていただいた先生方には、本当に感謝の念を送らねばいられません。学園の教育方針「人を大切に 自分を大切に物を大切に」の素晴らしさを感じます。

また、中学から全国大会を目標に、厳しい練習に耐え、その目標に向かって努力したバレーボール部で過ごした日々は、彼らにとって最もかけがえのない時間でした。周囲の期待に押しつぶされそうになりながらも、やっとの思いで掴んだ全国大会への出場は、今後の人生にとって、必ず役に立つであろうと確信しております。親以上の愛情を注いでいただいた顧問の先生方、また6年間という長い年月を共に過ごした仲間たち、6年間息子たちを温かく見守って下さった全ての方々に感謝いたします。

最後に金光学園のさらなるご発展を心よりお祈りしております。本当にお世話になりました。



卒業短歌

■ 1組 ■

増えたもの笑顔友達

制服の袖のほつれと感謝の思い

大本 京未

■ 2組 ■

くならない^ク僕に^クなれない^ク昨日^{かこ}に手を振って^クなれる^ク明日^{みら}に走り続ける

上原 太一

■ 3組 ■

ひたむきに光に向かへ春の旅人

不安や悩み今は追いぬき

池岡 卓也

いつてきます暑い日寒い日どんな日も

すぐに返ってくるいつてらっしゃい

高木 菜穂

卒業が近づくにつれ愛おしく

感じる日々と着なれた制服

秋本 朱梨

放課後の暮色深まる教室に

思い出したるは友どの日々

井上 恭成

毎朝の通学電車ゆらゆらと

ユメタン片手に夢の中

土井智香子

青い春友と競った野球道

共に流した涙の軌跡

中澤 快

夢を持ちこれから先の未来へと

期待を胸に旅立ちのとき

加藤 裕樹

旅立ちます褪せることなき思い出と

尽きることなき感謝を胸に

原田 茜

なにげない気づかいいつもありがとう

思っていたも言葉にできず

林 樹里

移りゆく時の無常を惜しみつつ

自彊不足と螢雪競う

宮永 泰成

■ 4組 ■

なんでもないあの毎日が思い出に

分かった気がする青春の意味

浅野 雄大

最後まで笑顔でいようと球友の

声おさえきれない涙ながして

尾崎 晃士

木造の温もり残すA校舎

通りし日々もあたたかきかな

多田 江里

春の日の陽だまりよりもあたたかい

父と母の優しいまなざし

松浦 里佳

■ 5組 ■

変わらない里見の川のかたわらを

もう通らないのにと思うと

金山 智哉

野球部のみんなで目指した甲子園

一生忘れん最高の思い出

平住 有都

居心地が良すぎていつも出られない

ほら今日もまたこんな時間だ

佐藤 沙樹

六年間共に通った通学路

さよなら自転車また会う日まで

仁科華菜子

■ 6組 ■

足蹟の一つさえない雪原を

踏んでゆくよな人生となれ

高田 淳平

山の夜見上げる空は流星群

俺の夢はすぐ近くに

萩谷 昇平

いざ往かむ舟を漕ぎて四方に見ゆ

蒼波切裂き彼の海原へ

森本 雅之

ありがとう友と過ごした六年間

心にしまい夢に羽ばたく

山本 翔子

■ 7組 ■

六年の思いをこの一球に乗せ

ボールは描く勝利へのアーチ

遠藤 涼平

ありがとう卒業という名の扉開け

新たな扉すぐ目の前に

本古谷啓太

あの頃の決意の固さ変わらない

今でも胸に「初志貫徹」

安原 光明

前の日はテキカツ食べて敵に勝つ

朝ごはんでも愛情かんじ

川崎 貴乃

贈る言葉

初心忘るべからず

垣内 寿生

「初心忘るべからず」とは、誰もが知っている言葉です。しかし、この言葉が伝統芸能である「能」を集大成した世阿弥の言葉だとは、知らない人も多いのではないのでしょうか？私もつい先日このことを知りました。しかも世阿弥の残した言葉は、私たちが今日一般に使っている言葉の意味より複雑で繊細な意味を持っていることを知り、大変驚きました。私たちは「最初の志を忘れてはいけない」と言う意味でこの言葉を使っています。何か不祥事を起こしたとき、会社の社長以下重役が「初心に返りまして・・・」と謝罪の記者会見を開きますが、ここで使われる「初心」は、「会社の創業当時の志」と言う意味です。

ところが世阿弥は

是非初心不可忘

(ぜひのしょしんわするべからず)

時々初心不可忘

(じじのしょしんわするべからず)

老後初心不可忘

(ろうごのしょしんわするべからず)

と、「最初の志」に限らず、人生にはいくつもの「初心」があると説いています。若い時には若いときの「初心」があり、中年には中年になったときの「初心」、そして年を取って老いた後にも、その時の「初心」があります。つまり人生において何か事が起こり、それに対処して乗り越えたとき、それは誰にとっても初めての経験であり、その人にとっての「初心」です。言い換えてみれば、人生とは「初心」の連鎖であり、世阿弥の言葉には「その瞬間、瞬間を一生懸命生きていきなさい」というメッセージが込められているように思います。

世阿弥率いる「観世座」は三代將軍足利義満に庇護され、絶頂期を迎えます。しかし、將軍の代が変わると急に疎まれ

るようになり凋落していきます。最後はいわれのない罪状を着せられ、実に71歳と言う高齢で、わずかな供を連れて佐渡へ流されます。愛する妻と離れ離れになり、能を舞うこともできません。しかし、都を遠く離れた佐渡の地においても能に対する熱い情熱は最後まで衰える事がありませんでした。世阿弥はどんな境遇にあっても柔軟な思考法を持ち続け、例え相手が能のライバルであっても、決して妬むことなく、謙虚に学ぶ姿勢を持ち続けました。世阿弥の生涯はまさに「初心」を忘れることなく、心の守りとして持ち続けた生涯であったと思います。

卒業される皆さんも「初心」を忘れることなく、それぞれの場でご活躍されることを祈って止みません。

失敗力

天野 浩美

ご卒業おめでとうございます。2年間、素直で優しいみなさんと一緒に過ごせたことを幸せに思います。特に高校3年生という、人生の転機とも言える重大な時期に一緒に悩んだり苦しんだりしながら乗り越えてきた日々は、私にとっても人生の糧になることと思います。

少し前、あるドラマの主人公の「私、失敗しないので」という台詞が話題になり、職員室内でも時々冗談交じりにその台詞を聞くこともありました。確かに、そのドラマの主人公は自分に確たる自信を持ち、堂々としていて格好良かったのですが、失敗することってそんなに悪いことなのかな、と私は思うのです。もちろん医療の現場など、人命がかかっているような場面では失敗は許されないとされています。けれど、これまで私は失敗もたくさんしましたが、それも良かったと思えるし、それも運命となかば開き直ってこんな人生も悪くない、と思えるようになりました。

私は高3のセンター試験で思うような結果を出せず、「失敗」してしまい、当

初志望していたのとは違う小学校教員の養成コースに進学しました。その後、中の教員免許をとることはできたものの、私の中ではずっとコンプレックスとして残り、高校の採用試験を受ける際にはとても気にしていました。そんな時、お世話になっていた教授から「小学校教員も学んだうえで高校教師を目指す、それは他の学生にはない君の強みじゃないか」と言われ、目から鱗が落ちたような、はっとした気持ちになったのを覚えています。コンプレックスを強みに、失敗を成功に、この発想の転換にとっても助けられたし、その後の私の支えになったと思います。

「失敗」を失敗に終わらせてしまうのか、それともその失敗を活かして「成功」へと転換するのか（その時点ですでに失敗ではないと思いますが）、自分次第です。みなさんの様々な行事で培ったバイタリティー、男女問わず仲が良く深い絆で結ばれた仲間、学園魂とも言える金光学園らしい精神を共有した先生や先輩・後輩たち……みなさんは失敗を成功に変えることのできる底力を身につけ、それを支えてくれる宝物を得たのではな

いでしょ。これからの人生、順調にうまくいくことばかりではないと思います。でも、そこで簡単に諦めてしまったら絶望したりしないでください。そこから真のスタートと思って自分を信じて前に進んでいってほしいと思います。「私、失敗を失敗で終わらせないので！」を決め台詞として。

『七転び八起き』と『七転八倒』
どっちが本当？

水野 大一

皆さん、ご卒業おめでとうございます。入学式がこの間のように思い出されますが、あつという間に3年の月日が流れました。私自身、高校1年生から3年生まで学年の皆さんと共に進級させていたのは教員生活十数年の中で初めての貴重な体験でした。おかげで大変感慨深い思い出の数々を頂くことができました。ありがとうございます。

さて、世の中には表題のように全く逆の意味を持つように感じる言い習わしが存在する場合があります。（『二度あることは三度ある』、『三度目の正直』などもそうですね）じゃあ、どっちが本当なの？

なんて考えたことはありませんか？中
も私が強烈な印象を抱くこのような言葉
として、『努力は必ず報われる』と『努
力は必ずしも報われない』というものが
あります。前者は一般的によく言われま
すが、後者は私には聞き心地も悪く、何
かしつくりこないのが正直なところでし
た。しかし、最近読んだテニスの錦織圭
選手の昨年1年間の活躍の要因について
触れた本の中で、次のようなことに触れ
て、後者に対する印象が大きく変わら
した。

「私たち大人は、『努力すれば報われる』
という思いで努力を積み重ねる。しかし、
子供の頃の無欲の訓練がもたらす進歩に
はかなわない。

赤ちゃんが歩き出すまでの動きを観察
してみよう。赤ちゃんは柱につかまり立
ちをした後ヨチヨチと歩き出し、倒れて
すぐにハイハイに戻る。その動作を懸命
に繰り返す。そしていつか2本の足で歩
み始める。それは一生懸命とか努力とい
う感覚とはまったく無縁である。

（中略）「一生懸命やっている」とか「頑
張っている」という意識がある限り成果
は限定される。ほんのわずかである、日々

の成長している喜びを敏感に感じ取ろ
う。それだけでなく、幸福感を抱きなが
ら修練を積み重ねれば、あなたは限りな
く成長していくことができる。

「努力が必ずしも報われないことを認識
しよう。」

（『錦織圭 マイケル・チャンに学んだ勝
者の思考』より引用）

この一節を読んで、なるほどと思いま
した。私自身も特に若い頃は何かに対し
て頑張っているという意識を持っている
と、結果が出ないことに対して苛立ちを
覚えた経験があります。頑張ればすぐに
結果に結びつくという過信した傲慢な考
えではなく、謙虚に物事に向かつていく
ことが大切だと改めて気づかされたよう
に思います。

つまり、『努力は必ず報われる』と『努
力は必ずしも報われない』という言葉は
どちらも聞こえすら違えどどちらも正し
い、もつといえれば過信したり傲慢になら
ず、かといつて卑屈にならず、常に前向
きで謙虚であることが大切だということ
をどちらの言葉も共通して示唆している
ように私は思います。このように捉える
と、表題の二つの言葉も人生はよく言わ

れるように失敗の連続で、その度に起き
上がればいい、そしてまた転ぶこともあ
るだろう、けれどまた起き上がればいい、
突き詰めていけば先述した前向きでかつ
謙虚な姿勢が大切であることを示してい
るようにも思います。



最後にあらためて、この3年間明るく素直で前向きな皆さんと日々を共に過ごすことができ、本当に幸せでした。これまで述べてきたように、これからも常に前向きで謙虚な姿勢を持ち続けて、より一層活躍されることを心からお祈りするとともに、引き続き心より応援いたします。時間があるときには、ぜひ学校にも近況報告に来てくださいネ。ありがとございました。

出会いを大切に

高田 直樹

みなさん卒業本当におめでとう。

私は、はじめて高校3年生まで担任を続けることができ、卒業を見届けることができます。そんな初めての学年がみんなで本当に良かったと思います。みなさんは本当にすばらしい生徒ばかりです。正直、自分の高校時代を考えるとみなさんほど頑張っていなかったし、みなさんほどしっかりしていませんでした。

しかし、そんな自分を大きく変えてくれたのは一つの出会いです。私の師匠とも言える人との出会いが、自分を成長させてくれました。ただ、最初はその

師匠を嫌っていました、会えば苦言ばかり言われる。いつもの口癖は「お前はしょほい」「お前が悪い」などなど。本当に煙たい存在でした。そんな中、ある時、自分自身の限界を感じ、自分にとって苦手な師匠にとびこんでみようと思心しました。すると、どんどん自分の中で意識革命がおき、自分の考え方が大きく変わったと本当に思います。そして師匠はいろんな人に私を紹介してくれて、自分一人では考えもしなかったような考え方を学びました。それが人生の転機だったと思っています。

これからみなさんには多くの出会いが待っています。それは自分にとって、うれしい出会いもあれば、辛く苦しい出会いもあるはずですが、でも、どんな人でもその出会いをどのように受け止めるか、その出会いをどう生かしていくのかによって、すべての出会いがすばらしいものになります。出会いは人を成長させます。もちろん私自身、その師匠だけでなく、みなさんという素晴らしい生徒たちに出会って本当に自分自身成長しました。改めて礼を言わせてください。「本当にありがとうございます。」

みなさんこれから出会いを大切に、そして出会いに感謝して毎日を過ごしてみてはどうでしょうか。

本当に卒業おめでとう！

3A'sの意識と実践

佐藤 徑

ご卒業おめでとうございます。皆さんが学園を巣立っていく最後の年に立ち会えたことをうれしく思います。1学期にはぎっくり腰になり、2学期には体育会の3人4脚に参加して転倒しジャージが破れ、その他諸々、特に3年4組の皆さんにはご迷惑をおかけした一方で、健康の大切さやNo pain, no gainの精神を少しでも伝えることができたのではないかと思います。

自分の信念を持つことは非常に大事で、人生を豊かにしてくれるものと考えます。皆さんが信念を持っていて素晴らしいと感じさせられたのは、面談で将来の夢の話聞いたときや、創立記念式や3学期始業式での所願表明といったあいさつを聞いたときでした。2学期には「今が大事」ということばが一つのテーマとしてあったように思います。そして、そ

の意味を考えさせられました。私なりの解釈をするにあたって、参考になったものがあります。それは、ベストブログ賞を受賞したことのあるニール・パシリチヤさんのプレゼンです。テーマは「The 3 As of awesome (サイコーな人生を送るための3つの秘けつ)」です。3Asとは、困難に出くわしたら、そのまま時間が過ぎるのを待つのではなく先に進もうとする心構え(Attitude)を持ち、何歳になっても赤ん坊と同じくらい的好奇心や気づき(Awareness)をもって人生の一瞬一瞬を生き、自分に忠実で自分に嘘をつかずありのままに生きること(Authenticity)だと私は解釈しました。

日常の中で一見些細で簡単に見過ごされそうなことにも幸せを感じられる人になりたい、そのためには日頃どのような気持ちでいることが自分にとってベストなのかを分かっておきたい、という人にも前述の3Asの意識と実践をすすめます。また、分かっているにもかかわらず自分になれなくて、未熟な自分を恨んだままだったり人のせいにしてしまったりするのか、前を向いて進んでいくこととするのかでは大きな違いです。今大事なこと

は、自分の信念をゆるぎないものにしていくことです。皆さんの人生が幸せなものになるように、これからも応援していきたいと思います。

卒業式を迎えるみなさんへ

内村 政司

皆さんご卒業おめでとうございます。私にとってこの2年間は実り多いものですが、皆さんにとってはどうだったでしょうか。やや気になるところではありますが、意義深い実りあるものであったとすれば幸いです。

金光学園に勤めて11年目、3年生の指導が半分以上になります。これだけ3年生に関わっていると、「同じことの繰り返しで刺激がないのでは?」と思われるかもしれませんが、毎年いろいろなことが起こり、そういう意味では今年もスリリングでハードな1年ではありました。もちろん、その分楽しいこと、うれしいことも多くあり、非常に充実した1年になりました。例えば、学校行事の際の出席率の高さや友人が困っていると進んで手を差し伸べようとする姿を見る機会が多くあり、正直言葉使いや行動に幼さは

感じるものの、皆「良い人」なのだと感じています。あえて注目を付けるとすれば、もう少し素直に好意を示した方がよいと思います。照れて素直になれず誤解を受けてしまうことも多かったですように感じられました。これからは、照れずにそして素直に行動に移してほしいと思います。

また、例年と違って文系の人たちともよくお話をしたように思います。担当科目が理系化学である関係で、教科指導上文系の生徒に授業をする機会はほとんどありませんので、まったく交流のないまま終わってしまいがちになります。しかし、この学年の文系の皆さんとはいろいろなお話をしたような気がします。例年とは比較にならないぐらい名前も覚えてました。(ただ、最近年のせいかな忘れっぽく、1年後に覚えていられる自信がありません。)正直役に立つ話ができただけのような気がとてもしませんが、話しかけてもらえたことがとてもうれしく、とりとめのない話を皆に迷惑をかけたのではないかと、気を使わせたのではないかと、今になって思います。この場を借りてお詫びします。自分でも何を書いているのかよく分か

らなくなってきましたので、そろそろ終わりにしようと思いますが、最後に一つだけ言わせてもらいたいと思います。人生で無駄になることは何一つありません。いい加減な気持ちで臨めば、何も得るものがなく、真剣に取り組めばどんな小さなことでも必ず得るものがあります。今はまだわからないと思います。半信半疑でも構いません。心に留めておいてください。最後にもう一度、皆さんご卒業おめでとうございます。皆さんの未来が実り多いものになることを心より願っています。

CHANGE

鈴木 公子

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

金光学園は私の母校であるため、私はみなさんのことを「生徒」としてだけでなく、「後輩」としても見守ってきました。自分自身が金光学園で充実した6年間を過ごした様に、生徒（＝後輩）たちにも、日々の学習の中から、様々な行事の中から、仲間とのかかわりの中から、人生の糧を思う存分得てほしいという強い願い

を抱いて接してきました。この6年間、みなさんは大きく成長しました。本当に多くのCHANGEを目にしました。勉強に対する意識の変化。行事や諸活動に取り組む姿勢の変化。他者への接し方の変化。そのどれもが、より良い人生を歩むためのポジティブな変化でした。

これから先の人生にも、大学、就職、結婚など、避けては通れないたくさんのCHANGEが待っています。変化はリスクを伴うものです。それまで慣れ親しんでいたものや心地よく感じる人間関係などがある「快適空間」から飛び出し、未知の世界に足を踏み入れなければならぬからです。失うものも生じる不安に抵抗や恐れを感じるものもあります。しかし、人生を有意義なものにするためには、変化に適應する能力も必要です。変化を受



け入れれば、そこには新しい世界が待っていて、人間としてさらに成長することが出来ます。今のみなさんなら、このことをよく理解できると思います。変化を恐れなくてください。自分自身の変化も、自分を取り巻く外的な変化も。ポジティブな変化を起こし続けましょう。

CHANGE!

たった一度の人生

自分で切り開け

石井 秀典

卒業おめでとうございます。

貴方の大切な人生の一瞬を共に過ごせた事を嬉しく思います。

同時に全ての事に「感謝」し、たいせつな思い出とします。

たった一度の人生です。

自分の好きなように生きるのめたいせつです。

家族を大切に 友を大切に そして、自分を大切に

♪ 夢 With You ♪

共にお互いの夢に向かって前進しよう。前進して疲れたり、躓いたりしても大丈夫

夫。
熱い瞬間を共に過ごした友がいるじゃないか。

勿論、私たちも居ます。

いつも いつまでも 共に前進しよう。
本当にありがとう。

あなたが生まれた日

山本 澄枝

誕生日。入学式。発表会。あなたは色々な節目で、周囲から「おめでとう」とお祝いの言葉をもらって来たと思う。その時、お祝いされて嬉しいことは言うまでもなく、その上に、これまでのあなたの成長の過程を思い出し、ここまで到達できたことは周囲の支えがあってこそのことと、感謝する気持ちを持つことができたら、人生はより豊かになるだろうと思えてならない。

今年の読書会で、「自分が生まれた日のこと」が綴られている本を取り上げた。この本は九州大学の授業で課せられたレポートで、自分の親に生まれた日のことを書いて書くものだった。その読書会でも、私はみなさんの親に自分が生まれた日のことを聞いてレポートを書いてもら

った。普段聞けない子どもに対する親の思いを聞き、ご両親への感謝の気持ちを書かれたレポートばかりが読み上げられた。読書会でお互いに読みあうことで、それぞれの家庭でのご両親の思いが伝わり、理解しあえ、会はとても温かい雰囲気にも包まれた。

そして、卒業式。私はみなさんに、「ここまでよく頑張ったね、おめでとう」と一人ひとりの顔を見ながら言いたい。と同時にみなさんには普段形としてなかなか表せないご両親への感謝の気持ちを、この「卒業」という節目の時に伝えて欲しい。さらに、「自分が生まれた日のこと」を振り返り、いただいた「いのち」の意味を再確認し、これからの人生でも「いのち」を大切にして欲しい。そうすることで、みなさんの人生が少しでも豊かになりそうな気がする。

私はこの4月、いきなり高3の学年に所属し、みなさんとの新しい出会いをいただいた。授業では半分程のみなさんしかご縁がなかったが、教室や廊下ですれ違うたびにとてもよく挨拶をしてくれ、話しかけてもらった。とても気持ちの良い学年。私はこの1年の出会いをと

ても大切にしたい。ご卒業おめでとう。

司馬遼太郎が伝える

「頼もしさ」とは

龍崎 恒祐

ご卒業おめでとうございます。これから皆さんがどのような人生を歩んでいくのか、とても楽しみにしています。

さて、司馬遼太郎という作家をご存知ですか。歴史小説家として有名な彼は、「21世紀に生きる君たちへ」という次世代へのメッセージも残しています。原稿用紙でたった5枚分という短い作品ですが、直筆の原稿を見ると、幾度となく推敲した形跡が見受けられ、「長編小説を書くほどのエネルギーが必要だった」と言うくらい力作です。もちろん日本語で書かれています。日本の子どもに對してだけでなく、アフリカの村の子どもやニューヨークの街にいる子どもにも通じる内容であると自分に念を押しつつ書き上げたそうです。

その中で、「鎌倉時代の武士たちは、『頼もしさ』ということをも、大切にしてきた。人間は、いつの時代でも頼もしい人格を持たねばならない。人間というのは、男

女とも、頼もしくない人格に魅力を感じないのである。」と言っています。さらに、「助け合うという気持ちや行動の元はいたわりという感情であるが、本能ではないので、相手の痛みを理解する訓練が必要である。」とも言っています。そして、「この訓練を重ねることで、自分に厳しく、相手に優しいという『頼もしさ』を身に付けることができる。」と締めています。司馬遼太郎の言うとおり、利己的な考えを持つていけば、自分に甘くなりがちです。今後、皆さんが様々な経験を通して、多くの人と触れ合い、この訓練を繰り返してくれることを願っています。

最後に司馬遼太郎はこう言っています。「君たち。君たちは常に晴れ上がった空のように、高々とした心を持たねばならない。同時に、ずっしりと逞しい足取りで、大地を踏みしめつつ歩かねばならない。」

現代の社会では様々な生き方が可能であり、それが正解なのか分かりません。しかし、頼もしい人格さえ持ち合わせていけば、どのような人生を歩んでも成功することでしょう。

新しい一歩

榊平恵美子

高校3年間の成長は、極めて著しいものがある。身体はもちろん、心であったり、生活態度であったり、また学力など、この3年間は短いようで実は永いことを実感する。1年の頃は、何事につけても中学生に毛が生えた程度で物足りなく、つい口を刺しはさみたくなったものだが、いつの間にか、高校生らしく成長し、将来を見据えて机に向かってる姿を見ていると頼もしくもあり、美しくもあり、嬉しい。何度も『3年』を往復すると、今では、3年後には、どんな生徒に成長しているだろうと心の中で楽しみ、待てるようになった。

漢和辞典を引いてみると、「待つ（俟つ）」とは、「じつと止まってまつ。待ち受ける」とある。どんなに本気で向き合っても、受け入れる態勢が整っていないければ、受け入れてはもらえない。踏み込みすぎると返って関係がぎくしゃくして人間関係の修復に時間がかかってしまう。「押しでもだめなら引いてみる」という言葉もあるが、その微妙な按配が肝要だ。時には、じつと身を潜めて待つ

てみるのもよい。これは、社会に出ても通用するだろう。行き詰まった時には、無理に進もうとせず、一度立ち止まって、大きく深呼吸をして、ゆっくり周囲を見回し、もう一人の自分の目で客観的に自分を見つめてみるのだ。そこから、また新しい一歩が始まる。

『人間到る処青山あり』活躍を祈る。





道

(11)

金光 道晴

「闇の中にこそその光がある」・「難はみかげ」

先日の1月20日に岡山県の幼稚園・小学校・中学校・高等学校のPTA連合会主催の研修会が岡山のシンフォニーホールで開催されました。毎年この時期に開催されているのですが、今回は私も久しぶりに参加させてもらいました。実は、講演を聴きたいことが一番の理由だったのですが、今年の講演者は金澤泰子さん・金澤翔子さん（母娘）でありました。といっても誰だかお分かりになりにくいと思いますが、「ダウン症の天才書家とそのお母さん」とか「NHK大河ドラマの『平清盛』の題字を書いたダウン症の女の子とお母さん」という説明をしたらお分かりになる方も多いのではないかと思います。実は私もその程度の予備知識しかありませんでしたが、「希望への階段―人生を生きる意味」という講演のタイトルが、聴かせてもらいたいという思いを一層強くしました。

母親である泰子さんは、42歳という高齢出産で待ち望んだ命をいただき、心から喜ばれたのですが、授かった我が子はダウン症で42年間の中で最も深く、辛い絶望になってしまったといわれるのです。当時のことを、「あらゆる希望が凍結

され、封印されたと痛感し、終身刑でも言い渡されたような思いだった」「生まなければよかった」「ひたすら母娘で死ぬことばかりを考えていた」などと表現されています。その後少しずつ前向きに生きていくことができるようになる中で、翔子さんが14歳の時に、最愛のご主人が突然病気で早世され、さらに娘を一番可愛がってくれて、たよりにしていた7歳年下の妹さんも癌で亡くされてしまいます。しかし現在、母泰子さんは「私たちは大変幸せです」とおっしゃり、「私がどんなに幸せかを皆さんにお伝えしたい。聞いて欲しい」と言われるのです。この紙面でその講演の内容を詳しくお伝えすることは出来ないのですが、私はそのお話を聴く中で、何度も涙があふれてきました。講演を聴いて10日余り過ぎた1月31日の山陽新聞「ちまた」欄に、そのお話を聞いた方が「金澤翔子さんの揮毫に感涙」という題で投稿されていました。次のような投稿文でした。「ダウン症の書家金澤翔子さんの揮毫を見、母の泰子さんの講演を聴いた。壇上の翔子さんは真つ白な大きな和紙に向かって正座し天を仰いで手を合わせ、やがて気持ちを進めて太い筆を取った。立った姿勢でダイナミックに書いた文字は『共に生きる』。私は何か分らないものに突き動かされて思わず涙があふれた。ダウン症の告知を受けた泰子さんは悲嘆にくれ子育てしたが、いつもニコニコしている翔子さんに救われた。家で書を教え、急死した夫の言葉通り20歳の記念に個展を開いた。来場者が感動の涙を流し次の個展へとつながり、10年で個展250回、全国での名

利での揮毫や大河ドラマの題字の仕事が舞い込んだ。今年はニューヨークで揮毫する。今は親子二人とても幸せになった、と穏やかに語られた。純心で平和で人を喜ばせることが何よりうれしい。世俗の欲がなく人をうらやむこともない。無心の心の中に確かな何かがある。力強い文字が翔子さんの生き方を表していると感じた。」このような投稿文でした。

その日の講演は時間の関係で「今こんな幸せだ」というお話は十分聴く時間がありませんでしたので、私は帰ってすぐに、知り合いの本屋さんに電話をして、「金澤翔子涙の般若心経」という本を注文しましたら、早速取り寄せてくださり、届けていただきましたので、読ませてもらいました。本を読んでも涙が溢れてきます。改めて人として大切なことや、親子の愛情について考えさせられるとともに、人は心の持ちよう次第で、同じ境遇の中でもそれを絶望と感ずることも、逆に幸せととらえることも出来るのだということを変更して考えさせられたのであります。

金澤泰子さんは「闇の中にこそ光がある」と言われ、「この世の中のことは全て心が決める」とおっしゃいます。金光教には「難はみかげ」とか「おかげは和賀心わがこころ（和らぎ喜ぶ心）にあり」という言葉があります。突然襲ってくる天地の異変や災害はまさに困難であります。自分や家族の身の上になる病気や怪我は大きな難儀であります。人間関係においても、仕事や勉強においても、難儀なことは日々起ってきます。しかし、それをどのように受け止め、そこからどういう生き方を

するかは、人によって千差万別です。闇の中に光を見いだし、難儀の中におかげを受けられる生き方を大切にし、そういう生き方を求め続けていかなければならないと思うのであります。怒りや、憎しみ、心配や、悲しみ、絶望の心には善きものは生まれてこないのですが、つついそんな心持ちになつてしまふ自分がいます。いつも和らぎ喜ぶ心を持つている自分自身でありたいものだと思うのであります。



活躍する卒業生

平成26年度

文部科学大臣表彰

科学技術賞受賞

中務 定義

(高29回)

それは突然のメールから始まりました。仙台で、高分子の放射線劣化^① について講演をして貰いたいとの依頼が「日本ゴム協会」から届きました。2011年福島震災後、日本全体がこの未曾有の大惨事に直面し、復興への道を模索している最中でした。協会として少しでも力になりたいとの考えから、放射線の基礎的なお話とその影響について講演させて頂きました。私が本件に関する論文を発表したのが2006年でした。当時はかなり特殊分野での発表ではありましたが、前例のない高い放射線量に耐えうるゴムのデータであったため、日本中の企業から注目されました。本格的開発から5年経過した私の研究も、皮肉な形で世の中のお力になることができることと成りました。サブテ

ーマとして実験を開始してからは実に10年の年月が経過していました。この功績が認められ2013年には「日本ゴム協会」最高の賞である「日本ゴム協会賞」を拝受し、文部科学大臣賞に推挙されました。「文部科学大臣賞」は、日本国内において様々な分野で顕著な活躍、或いは成果を挙げた個人又は団体に対し、文部科学大臣の名により授与する賞のことです。受賞対象は医学、工学、その他全科学部門が対象となります。26年度は約130テーマが選ばれ、幸いなことに本テーマは開発部門31件の一つとして受賞が決まりました。私の開発課題は「高放射線環境下で使用可能な新規ゴム材料の開発」です。

此処からは暫く少しばかりマニアックな話にお付き合いください。この技術は既に茨城県東海村に完成した、大強度陽子加速器^②の構造物に使われていました。この施設はヘリウムから得られる陽子を光速の99.9%まで加速し各種物質に照射し、化学構造の立体的解析その他に使用されています。またこの施設から放射される中性子は東海村から295km離れた、スーパーカーミオカンデ^③の巨大水槽に照射され、ノーベル賞を受賞された、素粒子^④の实

験にも使用されています。最近では次世代エネルギーとして注目され、ヨーロッパで実験施設が建設されている、核融合^⑤施設への採用も決まりました。上記本研究採用の両施設に共通することは、運転時に膨大な放射能を発生することです。当然施設の中に人が存在すれば死に至るまで1秒とかかりません。福島で大きな事故を起こしながら、人類は今尚放射線に関わる事業展開を模索しているのです。しかし一つ言えることは、近い将来、石油^⑥も、シエールガス^⑦も、メタンハイドレート^⑧も枯渇するという事実です。それは1世紀、2世紀以上先の話ですが準備は必要だということです。最終的には月面で核融合発電を行い、それを電波で地球上に送るような世界が必ず来ると思います。いつもの癖で話が少しコアなものになりましたことお許しください。

学園の学び舎から巣立ち、はや40年が経とうとしています。大学進学と言う選択肢がやっと一般人にも開け、定着してきた頃ではなかったでしょうか。何も目的が無く化学が好きと言う理由で工業化学科を選択しました。やっと入学できた大学は高校の化学の延長のように思え、

2ヶ月で失望してしまい卒業まで5年かかる有様でした。こんな人間に何ができるのだろうか、自分の才能が見いだせる場所が麻雀以外に存在するの不安で一杯でした。自慢と言えば大学時代唯一続けられた合唱と100人を超える仲間だけでした。今と違い大学さえ出れば、就職は何とかなる時代でしたが、東京、大阪にしか大手企業の就職先はありません。自分もその道を選択するものと思っていました。しかし、結局は訳あって地元の中小企業のゴム会社に入社することになるので、こんな不安とは別に入社と同時に大きな目標ができました。年配の技術課長の職人芸ともいえるゴム技術でした。大学でゴムを勉強した人間など今でも皆無の筈です。ここならもしかしたら自分の生き場所が見いだせるかもしれない、ふとそんな希望が生まれてきました。それからはずっかりゴムの虜になり一心不乱でした。気が付けば40歳になろうとしていました。今ではゴルフ、酒、etcと放蕩三昧の私からは想像もつかない姿でした。また、四十にして惑わず、ですが、私にとっては離婚という惑いも訪れました。何時も人生思い通りにはいかないのです。また今思えば、将来

の姿など創造できる筈はなかったのです。当然、文部科学大臣賞 など思いもつかぬことです。しかし人生捨てたものではありません。今の女房に捨われ、4人の子供に支えられ、友に支えられ、知命の50歳を迎えることとなります。そして少しばかり業界でも名が売れてきました。今日も一杯やりながら本文をしたためています。年末になると経済評論家が様々な予測をしますが、個人的には当たったことはないと思っています。何事も曖昧模倣として常に挑戦なのです。自分は少しばかり「つき」があり過ぎの感もありますが、これは次の苦労に向けての骨休めと今は思っています。

最後にイギリスが誇る天才物理学者・ステイブン・ホーキングスの来日時のコメントを記したいと思います。「この宇宙に地球ほどの進んだ文化を持つ惑星は幾つくらいあるか」の質問に対し、言下に200万と答えました。また「なぜ我々は実際に他の惑星の生物を目にすることがないのか」の質問には、地球ほどの文明を保有してしまおうと、そうした惑星は自らの正当な循環を狂わせ環境を破壊しつくし、文明の主体者たる生物は内面的にも不安

定な状況をきたして、瞬間的に（地球時間で100年）自滅するからと答えました。この言葉を石原慎太郎著の「新・墮落論」で読んだとき身が凍る思いをしたことを今でも忘れません。これは単なる技術屋の勘なのか、それとも生物としての勘なのかは今でも解りません。何れにしても言えることは、我々の生活環境は近年、猛烈なスピードで変化していることです。それらに上手く対応し、故轍に学び、人間としての矜持を保ちながら伶俐な頭脳を持って、ホーキングスの予測通りにならぬようにしようではありませんか。

取り留めもない話でしたが、人生は常に人との巡り合い、会話なくしては成り立たないと思います。「人をたいせつに自分をたいせつに 物をたいせつに」学園精神は何時までも忘れない言葉です。卒業後40年が経過しようとした今も年に数回開催される「29回生のゴルフ会」はスコアがまとまりませんが、実に心地よい時間であることに違いはありません。まさに「人をたいせつに」なのです。最後に本文投稿にあたりご尽力頂いた親愛なる同級生である藤井事務次長と西井さんに心から敬意を表します。

やつなみ保護者会のページ

今号は、キムラヤのパン屋さんの校内販売終了につき、原稿を寄せていただきました。また、高3の保護者の方に、各方面から卒業にあたっての想いを書いていただきました。

長年のご愛顧、ありがとうございました。

黒住 美代子

昨年12月17日のお昼休みをもちまして、キムラヤのパンの校内販売を終了させていただきました。義母黒住嘉野(前店長)によれば、販売が始まったのは昭和32年とのこと。57年間の歴史に幕を下ろしたことになります。

校内販売を終了することを告げてからは、いつにも増してたくさん生徒さんや先生方が買いに来て下さり、ねぎらいの言葉をかけていただきました。その上、最後には、生徒会の方々から心温まるスピーチとともに、立派な花束まで頂戴し、感無量でした。

販売時間は一日のうち、ほんの30分程

度でしたが、やはり年月が積み重なる感慨深く、いろいろな思い出がよみがえってきます。

入校時の合宿や体育会、部の合宿等、お昼休み以外にも、いろいろな場面でキムラヤのパンを使っていたきました。

まだあどけなさの残る、ピカピカの中学1年生が入学してきて、学園で6年間をすごし、すっかり立派になって高校を卒業してゆく。そんな姿を間近で大勢見してきました。人懐っこくおしゃべりな生徒さん、いつも静かで礼儀正しい生徒さん、にぎやかな仲良しグループ：皆さんから元気をもらいながら仕事をさせていただいた気がします。

今でもたびたび卒業生の方が店に立ち寄っては「なつかしいなあ。おぼちゃん

は元気？」と、先代の様子を尋ねて下さったりもしません。

以前は店内で調理パンを作っていた時代もあり、パートさんたちと5、6人がかりで、卵をゆでたり、



キャベツを刻んだり、トンカツを揚げたり、準備にでんこ舞いでしたが、それも今ではなつかしい思い出です。

残念ながら、その後店内での調理が会社の方針でできなくなり、校内で販売するパンも甘いお菓子のようなパンが多くなってしまいました。

「お昼ごはんとしてはどうかなあ、でも頭を使う生徒さんには甘いものも少しは必要なのかなあ」などと自問自答してみたり、製造販売ではないために、皆さんの要望に十分応えられなかったこともあったと思います。

そんな店が今日まで半世紀以上にわたって販売を続けてこられたのも学園の皆様あつてのこと。昨年創立120年を迎えた伝統ある学校で営業させていただいたことへの感謝の気持ちで、販売を終了した今、しみじみと湧き上がってきます。

「人を大切に、自分を大切に、物を大切に」学園の精神を心に刻んで、これからも過ごしていきたいと思えます。

金光学園の皆様、長い間本当にありがとうございました。一層のご発展を心からお祈り申し上げます。

長い間、大変お世話になり、誠に有難うございました。

教養部編集後記

教養部副部長 栗尾 佳代子

教養部副部長とは名ばかりの、部長である三木さんにはお世話になりっぱなしの1年間ではありましたが、保護者としては実り多き年でした。

言葉通りの手探り状態で、必死に突っ走って来た感があります。小学校以来の役員ですが、こんなに学園内の保護者会が濃いとは：正直、最初舐めていたかも知れません。

子と共に、親も育つとはこのこと。役員になるまでは、ほつま祭も「楽しいね、すごいね!」と完全なる見学側でした。それが、友愛セールの綿密な計画、準備、当日の担当など：色んな苦労と有り難み、見る側だけではない楽しみとを知ることが出来ました。

一番苦労したのが、学年の手作り会で。普段呑気過ぎる私、「何をする?」との事で皆様の視線が向けられた時には、冷や汗ものでした。今までの手作り会の土台を作って来られた皆様には、今年度初めての参加でついて行けず私はかなり頼りなく見えたと思います。実際あたふたしまくり

で、これ!と決まった途端に猪突猛進、そんな私に呆れずアイデアやアドバイスを下さったり、



手伝って下さったりした皆様のお陰で、素敵なアクセサリーを友愛セールに出すことが出来ました。気の遠くなるような経験も、思い返せば達成感となつていきます。

そして、昨年は金光学園が創立120年を迎えました。貴重な素晴らしい式典にも呼んで頂き、感動の多い年でもありました。鼓童のコンサートには私の両親も一緒に鑑賞し、金光学園のスケールの大きさも感じながら、ちょっとした親孝行が出来ました。

教養部としては、研修と共に様々な地域の保護者様と諸活動を語り合いました。「やつなみ」も、皆様のお力添えあつての刊行です。この拙い編集後記はさておき、皆様方の記事が読めるのを楽しみにしております。

研修旅行には残念ながら行けなかったのですが、大変充実した1年間を過ごさせて頂き、私も子と共に少しは成長したでしょうか。

今年度もあと少し。このたくさんの感謝を胸に、また1年1年を大切に過ごしていこうと思います。

改めて、有り難うございました!

卒業にあたり

高3保護者 中藤 歳浩

「あきらめない」・・・野球部に所属していた息子が、最後の大会を迎えるにあたっての意気込みを表した言葉は、この単純な一言でした。

「甲子園へ行きたいから」との理由を、第一の志望理由として金光学園に入學し、あつという間の6年間でした。家の周辺しか知らなかった狭い世界から、ちよつと拡がった世界。親の心配をよそに、数多くの仲間、恩師に恵まれて成長していく息子の姿は、親として、また、金光学園のOBとして、時には頼りなく、また時には逞しく映る日々の繰り返しでした。また、「野球」という、たった1つしか無かった幹から、多くの肥料を与えて頂いたことにより、大きく枝葉を拡げることができた学園生活に親子共々、大きな喜びを感じております。

金光学園での6年間の本当の意義を活かすのは、これからの生活の方が大事と
思います。

今後続きます後輩達にとつて、息子達が
良き先輩であるように、本人達の自覚
を促すとともに、今後とも変わらぬご指

導をお願いいたします。

最後になりましたが、「あきらめない」・・・この、着飾らず、しかしながら、思いの強さを表した言葉を、身体に
浸み込ませて頂いた金光学園関係者の皆
様に、心から感謝いたします。
ありがとうございます。

ありがとうございました

高3保護者 久戸瀬 育子

金光学園で勉強も野球も頑張りたいたい
という想いで入学させて頂いて、厳しくも
充実した6年間が今終わろうとしていま
す。私自身、中・高と金光学園でお世話
になっており、安心して通学させて頂き
ました。

息子は目立つことが嫌いで、パンフ
レットのお話を頂いた時や、パワーリフ
ティングの世界大会出場を依頼された時
も勇気が出ず悩んでいました。そんな時、
先生方や友達に背中を押して頂き、一歩
を踏み出すことが出来ました。特に世界
大会に出場させて頂いたことは視野が広
がり、彼の人生を大きく変える出来事にな
ったことは間違いありません。

勉強・野球・パワーリフティングをや

り遂げたことも大切ですが、その機会を
与えて下さり、細やかなご指導をしてく
ださった先生方に本当に感謝しておりま
す。

この6年間1日も欠席することなく通
学でき、多くのことを経験し、得たこと
をベースに更なる上のステージで羽ばた
いてほしいと思います。

最後に、金光学園での6年間お世話に
なった先生方、同級生、後輩の皆さん、
本当にありがとうございました。



会報

第5回評議員会 2月19日 13時30分開

会。往田副会長司会。内容は以下の通り。
一、中谷会長挨拶。二、協議事項。①平成27年度会長・副会長・監事の選考について。選考委員が次のように選出された。選考委員長、藤原智子。選考委員、北原治美、高田紫保、掛谷公恵、栗尾佳代子、高見美香。②25・26年度分の友愛セーブル収益金の使途について、学校側から高校1〜3学年全員分の机と椅子を新調することが報告された。③平成27年度総会について。5月2日(土)に開催することが決定された。

第3回全役員会 2月19日 14時20分開

会。内容は以下の通り。一、中谷会長挨拶。二、金光校長挨拶。三、学校近況報告。(横山教頭) 四、協議・報告。①各部 年間総括及び次年度へ申し送り事項。②研修・出張報告。③平成26年度会計決算見込みについて。④友愛セーブル収益金の使徒に

ついて。⑤平成27年度の地区委員・評議員選出のお願いについて。⑥金光教春の大祭(天地金乃神大祭)の湯茶接待奉仕のお願いについて。⑦平成27年度 やつなみ保護者会総会について。⑧教職員外部診断ご協力をお願いについて。五、その他の事項。年度末の行事について。六、小川副会長、閉会のあいさつ。

諸会合(九月以降分)

- 9月19日 玉島警察母の会施設研修会(岡山) 三木評議員出席
- 10月18日 浅口里庄P連母親研修会(鴨方) 松本・安原監事出席
- 11月4日 第2回県私学秋季研修会(岡山) 中谷会長、藤原・高見・川崎・森安評議委員、有馬・佐藤洋生活課長出席
- 12月5日 県高P連指導者研修会(岡山) 中嶋・宮口副会長、松本・安原監事出席
- 11月20日 備西地区高P連秋季総会(鴨方) 往田副会長、金光校長出席
- 1月10日 玉島警察母の会「110番の日」広報活動(玉島) 三木評議員出席
- 1月20日 県PTA連合研修大会(岡山) 中谷会長、往田・中嶋・宮口副会

長、松本・安原監事、金光校長、佐藤副校長、横山・山本教頭出席

- 2月14日 浅口里庄P連母親委員会第3回研修会(寄島) 宮口副会長、松本監事出席
- 2月18日 浅口青少年育成活動金光支部第3回理事会(金光) 中嶋副会長、金光校長 佐藤生活課長
- 2月20日 浅口金光支部青少年育成活動協議会研修会(鴨方) 浅口市内役員出席
- 3月16日 第2回保護者会等会長会議(岡山) 中谷会長出席

連島・福田・水島通学バスについて 運行コース変更のお知らせ

平成27年4月からコースを少し延長して生徒の皆さんが利用しやすいように変更いたします。奮ってご利用ください。

《運行コース》

霞丘小学校入口交差点発↓水島協同病院
↓観音堂↓福田公園入口↓水島鉄道交差点↓明神町・亀島交差点↓水玉ブリッジ
ライン↓唐船交差点↓金光学園着

【自然のこと】

10月初旬、東北は紅葉の季節を迎えていた。

十和田湖とそこからつづく奥入瀬溪流。紅葉した木々を通しての木もれ日が射し込む遊歩道を歩く。木もれ日はほとぼしる溪流の流れに反射し、まぶしく輝きつづけていた。

八幡平へはふもとのホテルから始発のバスに乗った。平日の早朝のためか乗客はわたしだけ。八幡平頂上のバス停で降りたあとバスが去ってしまうと、あたりは静寂に包まれた。無音の世界。耳の穴から脳みそがこぼれ出しそうな奇妙な感覚だった。水面に紅葉する木々を鏡のように映し出して静止したままの沼は、周囲の音を吸い込んでいるのではと思わせるたらずまいであった。

龍泉洞は日本三大鍾乳洞のひとつ。日本一の透明度といわれた地底湖に惹かれて訪れた。実際、地底湖は「これが水なのか!」と驚嘆するほどに澄んだ水をたたえていた。妖しく神秘的な青い色に光る湖に、魂が吸い込まれそうになった。

【東北の人のこと】

遠野で。宿で夕食を食べていると、わたしを訪ねてきた人がいるという。バス降車の際、気付かぬうちに小銭入れを落としていた。親切な運転手さんが業務を終えたあと、宿の見当をつけて、わざわざ届けてくださったのであった。

八幡平のホテルではチェックインの際、従業員の方たちにあれやこれやと声をかけられた。「隣室は年配のご夫婦だから、何かあれば話にくくと良い」とも。それらのことばの意味に気付いたのはずつとのちのことだ。わたしは宿泊当日に突然の予約電話をいれ、終バスで到着。始発バスで八幡平に向かう予定のため、夕食も朝食も断っていた。そうした経緯から、どうやらわたしは自殺を心配されていたらしい。ホテルの方たちの声かけにわたしは木で鼻をくくったような返事をするのみ。いつそうのご心配をおかけしたろうと思うのである。

酸ヶ湯へはバスでの移動途中に立ち寄った。滞在はバスの待ち合わせ時間のわずか1時間程度。有名な「千人風呂」につかるほどの時間もなかった。そこで出会ったのはおおぜいのおばあちゃんたち

である。農閑期の湯治であろう。かの女性の幾人かはわたしと同じバスに乗りした。出発が近づくにつれ、バスを取り囲むおばあちゃんが増えていく。そしてバスのエンジンがかかるとみんなが手を振り始めた。バスの中と外、だれもが深く曲がった腰を必死に伸ばし、懸命に手を振る。長年のきつい農作業で痛めたであろう腰、間もなくやってくる長く厳しい冬。「今生の別れ」ということばが浮かん

【東北のこと】

はじめての東北の旅は、旅慣れなさや未熟さゆえに見落としたものは多かったろうと思う。しかしこの旅で見たもの感じたことは今も心に残る。生まれ育った瀬戸内とはまったく異なる自然や風土、生活と文化があることを実感した。このちも大学時代には東北の各地を訪ねた。

2011年3月11日。その日から4年の月日が過ぎる。復興への願いをあらためて心に刻む。



メタセコイヤ

第51回全国競書大会で多くの成果

公益社団法人創玄書道会が主催する「第51回全国競書大会」に金光学園書道選択者の作品を出品し、優秀団体賞を受賞しました。

また、高1-1組の八方駿君が学年優秀賞を、高1-5組の小寺祐利さんが全国競書大会委員長賞を、また、高1-1組の竹内勝己君、高1-3組の櫻井明日佳さん、高1-5組の濱岡千尋さん、高1-6組の西岡彩貴さんが奨励賞を受賞しました。

八方駿君と小寺祐利さんからは以下のようなコメントをもらっています。

八方駿君

学年優秀賞を受賞でき、嬉しく思います。一生懸命練習したことが成果につ

小寺祐利さん

私は、第50回創玄書道会全国競書大会で大会委員長賞をいただきました。幼い頃から書道が続けているので、選択科目で書道を選び、一生懸命に書き込んでいます。学業と

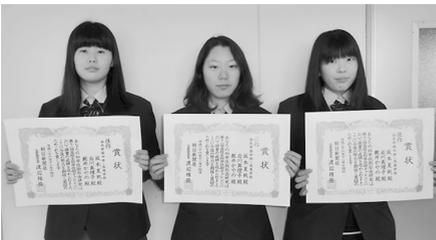
ながったのだと思います。また、努力することの大切さを改めて感じました。これからは様々な目標に向かって、努力を惜しまず、取り組んでいきたいです。



部活そして書道と頑張っていくのはとても大変ですが、これからも書道は続けていこうと思っています。ご指導くださる先生方に感謝をし、今回の受賞を励みに、これからも努力を続けたいと思います。

「佳作」 天文部天文ゼミJSECC2014で

朝日新聞社・朝日テレビが主催する高校生科学技術チャレンジ (JSECC2014) に高2-16組天文部天文ゼミで「木星の衛星イオと光速度*c*イオの公転周期変動について」のタイトルで研究を行いました。結果、岩川真理子さん・坂本夏帆さん・藪井かやのさんが「佳作」をいただくことができました。また、「天空の花火「ペルセウス座流星群」の研究」のタイトルで研究



を行いまとめた結果、岡本紗枝さん、川崎日向子さん、中原徹也君が同じく「佳作」をいただくことができました。
藪井かやのさん

天文学には以前から興味がありました
が、理解するのが難しい分野なので苦労
しました。今回の研究では解析のときに、
桁数の大きな数字を扱い、間違えないよ
うに計算するのが大変でした。しかし、
このような苦労
を乗り越えて粘
り強く研究を続
けた結果、素晴
らしい賞をいた
だくことができ
て嬉しいです。
今回の研究で得
た経験を今後の
大学での勉強や
これからの人生
にも生かしてい
きたいと思いま
す。



サイエンスチャレンジ岡山2014 「ペーパーブリッジ」の部門で、科 学系部活動チーム「KGM」が第 2位!

高2の工藤正成君、楠戸瑛介君、高1
の友田健登君、久安悟史君、山本佳歩さ
ん、小野恭平君、檀上知里さん、八方駿
君ら8名が科学系部活動チームとして出
場しました。実技競技③（ペーパーブリ
ッジ）で、参加チーム30チーム中、見事
第2位になり賞状をいただいて帰しまし
た。メンバーは放課後や帰宅してからも
ブリッジの構造を練りながら試作を何度
も作成して本番に臨みました。努力が報
われる結果になったことは大変喜ばしい
ことです。

チームリーダーの工藤正成君からは以
下のようなコメントをもらっています。
私たちがこの大会で学んだことは「チ
ーム」の大切さです。私たちのチーム「K
GM」は学年の枠を越えたチームで最初
は不安がありました。しかし、京都大学
合宿・放課後の練習で活発な意見交換を
することができ、一人ではあきらめてし
まいそうな時もお互いに手を取り合うこ
とで乗り越えることができました。こう



して育んだ「チーム力」こそが「ペーパ
ーブリッジ第2位」という結果を掴むこ
とができた最大の要因であったと思いま
す。これからも仲間と手を取り合い、支
え合うことの大切さを胸に、今後の活動
も頑張りたいと思います。

活躍おめでとう

《高校柔道部》

支えてくれた皆に感謝

高3 西井 孝輔



初めての中国大会でも緊張したが、応援に来てくれた後輩や家族、先生方の応援に力をいただいた。相手の選手はとてもパワーがあり負けてしまったが、3分間闘い切ることができた。3分間の中で今まで練習してきた内股で攻めることもでき悔いはない。高校生活を、同級生の大切な仲間とともに柔道の練習に力を注いだ。練習をする中で心身ともに鍛えられ、礼儀を身に付けるなど自分が成長できたと思う。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

《中学卓球部》

岡山県中体連部長賞授賞
みんながいてくれたから

中3 内山 桃花

「次のキャプテンはお前だ」

先生からそう伝えられたのは中学2年の夏でした。私はそれを聞いたときはとても驚きました。卓球部をまとめるといふ大役を任せられ嬉しく思う反面、私にそんな大役が務まるのかという不安もいっぱいでした。でも、今までの自分から少しでも変わりたいという

思いを込めて頑張りたいという思いを込めて頑張りたいという



思いから頑張ってやりとげようと思いましたが。

最初はできないことばかりで「本当に私でよかったのかな」と全く自信が持てませんでした。しかし、私の間違いをフォローし励ましてくれる同級生、私のことを信じついできてくれる後輩、そして先生や家族に支えられて私はここまでやってこれたと思います。今回の授賞は私一人のものではなくみんなで取った賞だと思えます。これからもみんなへの感謝の気持ちを忘れず、少しずつでも頼れるキャプテンになっていきたいなと思います。

悔しいという思いを努力に

中3 藤澤 友菓

今の私があるのは、日々支えてくれた家族や友達、指導してくださった先生方のおかげだと思います。私は小学校の頃から、ピアノと習字、水泳、卓球を習っています。私は続けている中でたくさん失敗や悔しい思いをしました。特に中学校で卓球部に所属し、試合で負けるとなかなか上達せず、ライバルにもあまり

勝てませんでした。しかし、私は悔しいと思う以上に努力をしました。その結果、チームメイトとの団結力も高まり、団体戦で県ベスト4に入賞できました。もちろんこれからも、もっと上を目指して、今まで以上に練習に励みたいと思います。

《高校卓球部》

試合を終えて感じたもの

高3 西岡 舜

私たちは平成26年6月12日から3日間、広島県立総合体育館で開催された、中国高等学校卓球選手権大会に出場しました。結果は団体戦が2回戦敗退、個人戦が1回戦敗退で決していい成績だとは言えませんが、この大会が高校生活において最後の大会ということもあり、改めて感じたことが多くありました。



その中で私が一番良かったと思えるのは、チームメイトや先生方に感謝の気持ちを持たせたことです。私自身、探究クラスで平日の練習にはあまり参加できず、自分よりも練習に励んでいる人がいる中で私が出場し、申し訳なく思う気持ちと試合に出させて頂ける感謝の気持ちと交錯していました。そんな中、皆は一生懸命応援してくれ、考え直してみると、多くの人の支えのおかげで自分はここまで来られたのだという実感を得られました。

また、この試合を通して部活動というもの大切さを自分なりに理解できたと感じ嬉しく思います。

中国大会に出場して

高2 小見山 知遥

1月30日から2月1日、広島市安佐北区スポーツセンターで行われた第42回全国高等学校選抜卓球大会中国地区予選会に岡山県代表として出場した。昨年に引き続き、連続出場を果たした。県大会では自分たちの持っている力が発揮でき、男子5位、女子4位で中国大会の出場権を得ることができた。

中国大会では各県常連の強豪校ばかり

で、メンバーそれぞれがベストを尽くしたが、勝利に結びつけることができず、予選敗退という結果に終わった。結果は満足のいくものではなかったが、この大会に出場することができたのは顧問の先生のご指導と、共に練習してきたこのメンバーのチーム力のおかげだと思う。

この悔しさをバネに、次の中国大会にも出場できるように日々の練習に励みたいと思う。

《高校少林寺拳法部》

第17回全国高等学校少林寺拳法選抜大会

平成26年3月22日(土)・23日(火)、香川県丸亀市において開催された第17回全国選抜大会に高校2年の中野真聡が男子自由単独演武の部に、同じく高校2年の有田胡桃が女子規定単独演武の部に出場した。2人とも健闘したが、予選突破はならなかった。



「全国選抜大会に出場して」

高2 有田 胡桃

私は3月22・23日に香川県で行われた全国選抜大会に、女子単独演武の部で出場しました。私にとって初めての全国大会であり、不安と緊張でいっぱいの中の演武だったが、自分の出せる力を全て出し切れたので、これまでで一番良い演武ができたと感じました。決勝には出場できなかったが、とても良い経験ができました。この経験を活かして、次が決勝に進出し、入賞できるように日々の練習を大切にしていきたいと思っています。

高2 中野 真聡

僕にとってこの大会は高校生になって初めての全国大会だったので、出場できて嬉しい気持ちもあれば、不安な気持ちもありました。全国大会で自分の力を出し切れたと思いますが、決勝には進出することが出来ませんでした。決勝を見ながら、自分も来年は決勝に残れるように練習を頑張ろうと決意しました。

第24回中国高等学校少林寺拳法選手権大会

6月14日(土)・15日(日)、広島市のグリーンアリーナにおいて中国選手権大会が開催された。本校からは、男子単独

演武の部に高校2年の中野真聡、男子団体演武の部に同じく高校2年の山中勸輔・中野真聡・三宅爽広・倉田優樹・藤原知弘・森藤啓介が出場した。団体演武は第5位となった。

「中国大会に出場して」

高2 山中 勸輔

僕は広島県で開催された中国大会に団体演武の部で出場しました。中国大会出場は2回目なので、前回よりも良い結果を残そうと思って練習しました。しかし、大会ではあまり良い結果を残すことはできませんでした。他の学校の演武はやはりレベルが高いなど改めて思いました。

そしてこの悔しさをバネにして、次の大会で少しでも良い結果を残せるように頑張りたいと思います。



《中学スケート部》 第35回全国中学校スケート競技会に出場して

中1 木科 雄登

1月30日から2月3日まで、長野県のビックハットで、第35回全国中学校スケート競技会がありました。このスケートリンクは、昨年12月に全日本フィギュアスケート大会で訪れていたのですが、あまり緊張はしませんでした。初めて出場する全中ということで、気の引き締まる思いで臨みました。

ジャンプの失敗はあったものの、いい緊張感の中で集中して滑ることができ、6位に入賞することができました。会場では、応援して下さる方々が名前入りのバナーを貼ってくださっていたり、声をかけて下さったりと、演技の励みになりました。

また4月には、国際大会への出場も決まっていますので、日本代表として恥ずかしくないように、今以上に練習して、皆さんに応援していただけるスケーターになれるように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。

《中学放送部》

中3 植田 七菜子

私たち中学校放送部は、昨年行われた第31回NHK全国中学校放送コンテスト全国大会のテレビ番組部門において、優良賞を受賞しました。

この番組のテーマは、SNSアプリのLINEです。社会問題にもなったLINEのメリットやデメリットについて生徒や保護者、先生へインタビューやアンケートを行い、私たち中学生が今後、どのようにLINEと向き合うべきなのか、番組制作を通じて考えました。初めての番組制作だった

ので、なかなか上手に進まず、頭を悩ませました。失敗を重ねながらも、皆でアイデアを出し合



い、納得のいく作品を作り上げました。また、全国大会入賞を受け、今年の2月に中学放送部が平成26年度岡山県学校文化関係表彰に選ばれました。大変うれしく、誇りに思っています。

今年是全国大会優勝を目指し、より良い番組制作を行っていきたいです。

中3 横山 美希

昨年、第31回NHK全国放送コンテスト岡山県予選会が行われ、私は朗読部門で優秀賞を頂き、全国大会へ出場することができました。今回の朗読は私にとって初めての挑戦で、苦勞することが多くありました。OGや顧問の先生方からのアドバイスを頂きながら、毎日一生懸命読み込みました。そして、毎日練習した成果が発揮され、自分が優秀賞に選ばれた時は本当に嬉しかったです。その後、全国大会では全力を尽くしましたが、最終選考まで残ることはできませんでした。全国のレベルの高さが身にしみました。

今回学んだ経験を今後の活動や次回の放送コンテストに生かしていきたいです。顧問の先生方、放送部員、本当にありがとうございました。

《水泳部》

中国大会に出場して

中3 佐藤 大紀

8月に米子で行われた水泳の中国大会に出場しました。中国大会の前に県予選があり、その大会は中国大会につながるものでした。県予選では良いペースで泳ぎ、中国大会へ出場することが決まりました。

中国大会では台風が来てしまい、予選、決勝なしの一発勝負になってしまいました。まず最初に200m背泳ぎに出ましたが、結果は最悪でした。今でもその時の結果を見たくありません。リベンジを果たすために気持ちを入れかえて、次の100m背泳ぎを頑張ろうと思つてむかえた翌日、台風のせいで中止になってしまいました。

高校ではこの悔しさをバネに日々練習に励みたいです。そしてインターハイに出場できるように頑張りたいです。

中国中学校水泳大会に出場して

中3 西川 華

私は8月に鳥取県米子市で行われた中国中学校水泳大会に出場しました。中国大会出場は毎年目標にしていたことで、

出場が決まったときはホッとしました。そして今年は、中学最後の年だったので、全国中学校大会への出場を最大の目標にしていました。残念ながらその目標は達成できませんでした。とても悔しくて、なかなか立ち直れなかったのですが、全国大会に出れなかった分、中国大会でがんばって結果を残そうと思いました。しかし、中国大会でも良い結果を残すことができませんでした。やはり、競技をしている以上は良い結果を残すことが一番なのですが、岡山県の選手や他県との選手仲を深めることができたので、中国大会に出場できたことはいい思い出になりました。中国大会に出場できたのも、家族の支えや友達、コーチの応援、そして県の予選会や中国大会に引率してくださった先生方がいてのことだと思います。本当にありがとうございます。

《スキー》

中国中学校スキー大会に出場して

中3 西川 華

私は1月27日から29日に島根県飯南町の琴引フォレストパークで行われた中国中学校スキー大会に出場しました。私は

競技スキーを始めてからあまり月日が経っておらず、大会もあまり出場していない中での出場でした。去年より練習は積んできたものの、大会には慣れていなかったで、スタート前は緊張と不安でいっぱいでした。結果はまだまだ力不足な部分もたくさんあり、速い人たちとは差がありすぎるということを痛感させられました。そして、来年はもっと力をつけて、その力を本番で最大限に発揮できるようにになりたいと思いました。

スキーの大会への出場を認めてくださったり、遠方まで引率してくださった先生方には感謝しています。ありがとうございます。

《中学バレー部》

第11回中国中学バレーボール新人大会に出場してみて

中1 市川 翔太

2月14日から岡山市の桃太郎アリーナで行われた第11回中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。予選は順調にストレートで勝ち、決勝トーナメントも順調に準々決勝を島根県第一代表の安来第三中学校をストレートで勝ち、準決勝に進みました。準決勝

の相手は先輩たちからの宿敵、山口県代表の高川学園中学校です。先輩たち同様、僕たちもどうしても勝ちたい相手でした。1セット目を勝ったものの惜しくも1-2で負けてしまい、3位という結果となりました。この経験を活かして夏の総体に向けて頑張り、先輩たちが成し得なかった全中出場を目指して頑張りたいです。校長先生をはじめ多くの先生方の応援をお願いします。また、応援に来ていただいた僕たちの保護者の皆様にもお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございます。



中1 長谷川 主税

僕たち、男子バレーボール部は2月14日から岡山の桃太郎アリーナで行われた春季中国中学バレーボール新人大会に岡山県を代表して出場しました。去年の夏も同じ桃太郎アリーナで行われた夏季中国大会に出場しました。僕は、その時は初めて中国大会の大舞台を知り、先輩方の目標が全国大会だったことを知りました。残念ながらベスト8という結果となりました。中国

でベスト8なんてすごいと思うのですが、先輩方はたいへん悔しがっています。今回はその夏に向けて中国新人大会を3年ぶりの優勝を目標に頑張りまし



た。予選を1年生も全員出場し、全てストリートで勝つことが出来ました。決勝トーナメントの準々決勝では島根県代表の安来第三中学校もストリートで勝ちました。しかし、準決勝では宿敵山口県の高川学園中学校にはフルセットの末、負けてしまいました。負けることの悔しさを胸に、次に繋げるために日々を大切に頑張りたいと思っています。

中2 石本 皓南

僕たちは2月14日から桃太郎アリーナで行われた第11回中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。予選は、二戦ともストリート勝利したものの、課題の残る初日でした。絶対に負けられない2日目の決勝トーナメント。僕たちは適度な緊張感を持ち、準々決勝で島根県代表の安来第三中学校に挑み、ストリートで勝ちベスト4に進出しました。続く準決勝は山口県代表の強豪高川学園中学校。多くの方々からの声援を胸にチーム一丸となり戦いました。1セット目は取る事が出来ましたが、ジワと差が開き、2セット目、3セット目と連敗され負けてしまいました。残念な結果に終わってしまいましたが、応援

して下さった方々の期待に応えるべく、日々精進して参りますので、これからも応援よろしく願います。ありがとうございます。

中2 伊藤 匠

僕たちは2月14日から中国中学バレーボール新人大会に岡山県代表として出場しました。僕は主将としてその開会式で選手宣誓をしました。たいへん緊張しましたが、応援してくれる母や皆のおかげで無事にその大役を務める事が出来ました。試合は順調に予選を勝ち進み、決勝トーナメントに進出し、準々決勝の島根県第一代表の安来第三中学校をストリートで下し、ベスト4進出。準決勝では宿敵山口県第一代表の高川学園中学校と対戦しました。1セット目を先取したものの、負けてしまいました。残念ながら今大会は第3位という形で終わってしまいました。応援して下さいました。多くの保護者の方々や仲間感謝しています。夏の総体までには一段とレベルアップした姿を見て頂きたいと思います。全中目指して最後まで諦めないプレーを心がけたいと思っています。これからも応援よろしく願います。

中体連会長表彰を受けて

中3 中山 翔太

今回、中体連会長表彰を受賞できて、とても嬉しく思っています。この表彰は多くの方々の支えがあったから受賞することができたと思っています。僕は、この中学3年間でバレーボールを通してたくさんの事を学び、経験することができました。仲間と共に乗り越えてきた厳しい練習、負けた時の悔しさ、勝った時の喜びなどの全てがこの賞へとつながったのだと思っています。また、チームメイトがいたから今まで続けることができたと思います。この賞はチームのものだと思います。だから、この賞を糧にもっと上を目指し、全国大会に出場できるように日々精進していきたいと思っています。支えてくださる全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、頑張りますので、今後もし声援よろしくお願いします。

部長表彰を受けて

中3 神原 寛加

この度、部長表彰を頂くことをとても感謝しています。この賞を頂けたのは、日々応援してくれた、家族や友人、そして、毎日一緒に練習し、支え合ってきた

仲間、バレーボールはもちろん、バレーボール以外のことまで教えてくださった先生方のおかげです。長いようであつという間の3年間、この3年間でいろいろな体験をさせてもらいました。入学して初めて、中学生のバレーを見て、小学生のバレーとのネットの差に驚きました。中学2年と3年でレギュラーになり全国大会を目標に頑張りました。惜しくも、中国大会で敗れてしまいました。この3年間で学んだことを充分に発揮して、これからも仲間と共に頑張っていきたいです。これからも応援よろしくお願いします。

部長表彰

中3 福山 雄大

今回、部長表彰を頂けることを大変嬉しく思っています。この賞を受けられたのは、先輩、同級生、後輩の支え、優しくも厳しくも接して下さった先生、そしていつも励まし、応援して下さった家族のおかげです。バレーボールを始めて8年となりました。思えばあつという間の8年間でした。そして、その8年間で様々な大切なことを学びました。小学生の時には責任感を、中学生の時には先

輩への礼儀

や協調性な

どです。学

んだそれら

のことを糧

にし、これ

からの活動

により一層

励んでいき

たいです。

そして、イ

ンターハイ

出場を目指し、日々の練習を一生懸命取り組み、自分のレベルをどんどん上げて

いきたいです。これからも様々な人に支

えられながらバレーボールをするのだと思

います。その期待を裏切らないようが

んばりますので応援よろしく願いま

す。

《高校バレー部》

中国高等学校新人バレーボール大会に出場して

高2 河田 嵩寛

僕達高校男子バレーボール部は2月13日から広島グリーンアリーナで開催された第23回中国高等学校新人バレーボール



大会に出場しました。県2位での出場という悔しさと引退して練習を手伝って下さる高3の先輩方のためにも勝ちたいという気持ちで挑みました。

初戦は広島2位の崇徳高校。1セット目は競りながらも取りましたが、1セット目以上に強烈なジャンプサーブを連続で決められ、フルセットで負けてしまいました。続く2戦目は山口3位的美祿青嶺高校。途中何度かリードを取られることもありましたが、しっかりと粘り、確実に一つ一つ点を積み重ねストレートで倒すことができました。総当たりで1勝1敗となりました。今年度を締めくくる試合としては満足のいく結果を出せなかったので、新たに中3を加え目標となる春の大会、そしてインターハイ予選へと練習に励みたいと思います。どうぞ応援よろしくお願ひします。

《電気化学部》

第15回全国中学生創造アイデアロボットコンテスト中国・四国地区予選大会に参加して

中3 松本 大輝

9月に里庄で行われている仁科ロボコ

ンでは、予選リーグで負けてしまったので、創造アイデアロボットコンテストでは余計にがんばろうと思って準備してきました。11月の岡山県大会では、リーグ戦で1位をとり、決勝トーナメントの準々決勝で負けはしたもののアイデア賞をもらい、中四国大会への切符を手に入れることができました。そのときは負けたと思っていただけに残ることができたので、戸惑いながらもうれしかったです。12月の中四国大会は4年ぶりの出場ということを知りました。前日に島根県に行き、夜みんなで調整をしていました。当日朝早く電車で移動し会場入りをし、周りをみるとみんな強そうだなと思っていました。実際試合では相手が強かったのと、緊張で思うように操作ができず、予選リーグの敗退



となってしまう。さすが各県の代表が集まった大会なのでみんな強く、しようがないなとは思ってたけど、やはり中学最後の大会だったので、負けたのは悔しかったです。高校でもロボットを作って大会に出場して、いい成績を取ってきたいと思っています。

表紙の言葉

中1 小島 里菜子

この版面の俳句は、「春風や 闘志いだきて 丘に立つ」なので、闘志をイメージして、これからの将来や、社会に対する強い意志や意気込みを込めて作りました。

探究

授業報告



中三探究

☆ダイベート

3学期は各クラスを男女混合のグループに分けて、ダイベート大会を行いました。論理力、批判的思考力、調査力、発表力を身につける目的です。ダイベートの説明を受けた後、グループに分かれて図書室の文献やPCを利用してテーマについて調査しました。1回戦「動物園の動物は幸せである」、2回戦「死刑制度を廃止すべきである」、3回戦「赤ちゃんポストを廃止すべきである」について調べ社会問題について考える良いきっかけになりました。

高一探究

☆ゼミ活動

文献検索や準備、調査、実験、観察などゼミごとに研究を進めています。各個

人・グループの研究テーマは、「水問題から共生を考える」「識字率向上のための日本の援助」「岡山のプロドウを海外に販売するためのマーケティングを考える」「現在の日本ジーンズの輸出事情」「イオンセンティブツアーによる観光」「素数について」「Eメールを利用したゲームシステムの構築」「流星の研究」「風洞装置作成」「味とアミノ酸」「水棲貝類の生息状況と水質の関係」「ヒライソガニの蹠脚にみられる種内変異」「運動量の違いで暗記量が変わるのか」等を設定し、それぞれが意欲的に研究を進めています。3月8日の中間発表会では、大学等の先生方をお招きして、今までの研究成果をまとめたものを発表し、その後の研究を展览展示させるためにアドバイスを頂く予定です。

☆探究Ⅰ

岡山の歴史と文化研究フォーラムへ参加
私達ジーンズゼミは、高校生による岡山の歴史と文化研究フォーラムに参加してきました。学校以外の場所でもプレゼンテーションをするのは初めてでも緊張しました。発表当日まで、6人全員で行った練習は全然していませんでした。皆が当日の朝、皆で必死に練習して賞を受賞することができました。他の学校の方々の発表も聞けて、とても勉強になりました。



岡南北西ロータリークラブ賞受賞！

私達ジーンズゼミは、12月に行われた高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラムで岡南北西ロータリークラブ賞を受賞することができました。数百人の前で発表するのは、とても緊張しました。当日の朝、沢山練習し、世界へじー

ンズをどうやって発信していくか考えました。このような経験ができたことを感謝します。今回学んだことを活かせるように、今後の活動も頑張ります。

高二探究

☆探究Ⅱ

これまで取り組んできた研究の総仕上げとして、英文アブストラクトにも挑戦した研究論文を完成させました。理系ゼミは引き続き、3月8日の国際化発表会に向けて、英語ポスターを使い、英語発音や質疑応答の準備など高いレベルを目指して頑張っています。国際化発表会では、各分野の専門の先生方や海外からの留学生に助言者としてお越し頂き、内容についての感想やアドバイスを頂く予定です。



校外発表会

校外の発表会やコンテストに参加・出品し、様々な賞を受賞しました。

☆高校生による岡山の歴史・文化研究フォーラム「岡山北西ロータリークラブ賞」受賞

(高一)「岡山のジーンズの世界進出を目指して」ゼミ：青木桃子、磯崎真理子、川崎菜鈴、中村美結、布川奈於、渡辺奈南子

☆塩野直道記念 算数・数学の自由研究作品コンクール「Rise奨励賞」受賞

(高2数学ゼミ)：杉悠生



☆生まれ！科学への挑戦者「優秀賞」受賞
(高2天文ゼミ)：中原徹也、岡本紗枝、川崎日向子

☆朝永振一郎記念 科学の芽賞「努力賞」受賞

(高2化学ゼミ)
：猪爪美遙、清水沙紀、菅野真那、久本莉彩子



中1合唱コンクール

「心で歌え！〜輝け僕達のアオハル（青春）」

2月17日（火）於 小体育館

初めての合唱コンクール

1組 荒木 茉理亜

あれっ、もうすぐ本番なの。合唱コンクールの1週間前ぐらいに思いました。まだ時間があって練習もたくさんできると思っていたのでびっくりしました。当日もあまり実感がありませんでした。

私は実行委員としても頑張りました。プログラムの絵を描いたりパネルの準備があったりと、当日になるにつれて実行委員会が毎日になりました。先生方が細かくどんな仕事をすればいいか、また実行委員長、副実行委員などがみんなをまとめてくれてとても用意が楽になりました。準備や本番でみんなに拍手をもらえた時は「実行委員をやった良かったな」と心で思いました。

クラスの合唱は、最初は不安でいっぱいでした。歌いたかった曲とは違っ

たし、友達にきいて感動したと言われたとても嬉しかったです。歌った人たちも、指揮者、ピアノ伴奏の人もみんなそれぞれが頑張っていて最優秀賞はもらえなかったけどそれだけで満足だし、またクラスの思いが増えて良かったです。

練習も間違えたりして本番をむかえるに完璧ではなかったと思います。でも実際、声は音が高かったり難しい曲調なので小さかったかなと思うけど、ちゃんとメロディーも歌え



あと1か月と少しで1組が終わってしまいます。球技大会、ほつま祭、体育会などのたくさんさんの思い出をかみしめながら次の球技大会と日々を過ごしたいと思いました。

笑顔で、全力で歌った合唱

2組 平松 宏一

ほつま祭、体育会などの行事も終え、やっと落ち着いてきたなと思っていました。そんな2学期の終わり、2月に合唱コンクールがあることを知り、練習がスタートしました。

僕は正直、あまり緊張感なく練習していましたが、3学期に入ると入校時合宿の時とは雰囲気が違うことを感じるようになりました。

このような練習の中で僕は、授業や放課後に長い時間合唱練習をすることになっても、誰も文句を言わず、笑顔で楽しそうに歌っているクラスメイトを見ると、とても気持ち良く歌うことができ、2組なら必ず優勝できるという自信を持つこともできました。

本番当日、多くの先生や保護者の中、さまざまなパフォーマンズで会場を盛り上げるほかのクラスを見て驚きました。

合唱の時、声のポリュームと一体感では負けないという強い思いで精一杯歌いました。副校長先生から、ハーモニの美しい合唱だったとほめてくださった時、思いが伝わったことを実感しました。

今回の合唱コンクールは結局、最優秀賞をとることが出来ましたが、僕はそのことより、クラス全員で楽しく歌えたことや、他のクラスの歌をしっかりと聞けたことの方がうれしく思いました。また、残り少ない2組の良い思い出となることができ、何より音楽がこれまで以上に好きになることができました。

あと少しで2年生になりますが、この合唱コンクールを含め、1年生で学んだことを活かしていきたいと思えます。

合唱コンクールを終えて

3組 杉田 愛佳

3組はほつま祭でも体育会でも賞をとる事が出来なかつたので、この合唱コンクールでは、絶対優勝するぞという思いでいました。

自由曲の曲を決め、私は実行委員に入り、また課題曲の伴奏も行いました。実行委員は3組が1番人数が多く、みんな

で頑張るぞという気持ちでみんなもいるのかなと思ひ、よけいにやる気が高まりました。

1月の終わりごろは2組と3組以外は学級閉鎖になり、吉永先生は肺炎になり、私がインフルエンザで休んでいる間にそんなことが次々とおこり、私も布団の中で早くみんなと練習しなければ、そんなあせる思いでいました。インフルエンザになった1日目の朝は、お母さんにお願ひして1時間目の音楽だけでも行こうかと思っていました。そのくらい私は合唱コンクールに熱い思いをいだいていました。みんないろいろなハプニングをのりこえて、合唱コンクール本番を迎えました。

自由曲は、最後のクラスでの練習ではみんな私の案にのってかれて、ソロとアカペラとカホンと手拍子をする事になりました。練習時間が少ない中で、終礼の後にみんなで練



習したりして、やっとできるようになりました。その結果本番では、パフォーマンス賞をとることができました。本番は、皆今まで練習してきた成果を出すことができたとと思います。

私は、実行委員で司会の仕事もする事になっていました。これも合唱コンクールを成功させるための大切な仕事だと思つたので、放課後5組の辻川君と平松さんと一緒に練習しました。それから伴奏ではクラスでの伴奏も全体合唱の伴奏もうまくいって良かったです。講師のとき、佐藤副校長先生がほめてくださったのでとても嬉しかったです。

この合唱コンクールは、クラスのみならずで頑張つてやる事なので最後の行事だったので、みんな頑張られてよかったです。

合唱コンクール

4組 田邊 陽紀

ついに何週間も前から、今日の日のために頑張ってきた合唱コンクールがやってきました。僕は今日が参観日であったこともあって、いつもより気合いが入り、

絶対歌いきり、最優秀賞をとってやるぞという気持ちになりました。ですがやはり最初は歌詞も覚えていないし、ふざける人もいて、本当にこれからちゃんといけるのかなと不安でした。ですが、自由曲を決めて、歌詞もみんなと少しずつ覚え、ふざける人もまじめにしないで、しだいにみんな心が一つになってもうほとんど完璧にできるようになりました。

そして準備万端の状態でも本番を迎え、僕はあまりの人の多さに緊張していました。でも、他のクラスの人達が堂々と歌っているのを見てしだいに僕も負けないうように大きい声を出したけど、結果は最優秀賞ではなくて笑顔賞でした。でも先生達は僕たちの笑顔が他のクラスよりもよかったからこの賞をくれたと思うので僕はうれしかったです。



最後にお母さん方の合唱でし

た。やっぱりお母さん方は僕たちより歌はうまいなと個人的には思いました。来年からは先生方の合唱もすればいいのになとも思いました。

ふり返ってみれば、この1年間4組ですごした最後の発表会で、僕はこの1年間は早かったようでとても短かったように思えます。色々な事があったけど、やっぱりこのクラスのこのメンバーで1年間すごせて、とてもよかったなと思います。

合唱コンクールで深まった絆

5組 森永 慶之

僕は、合唱コンクールで絆が深まったと思うことが3つあります。

1つ目は、クラスのみんなと話し合って、自由曲を決めたことです。最初は、ロックがいいとか、ボカロの曲がいいとか少しふざけていたけど、みんな曲を出し合い、「この曲感動するよ」「この曲私たちのクラスに合ってる」とクラスの一人一人が自分達のことを考えて決めることが出来ました。

2つ目は、曲にアドリブを入れたり、ソロパート、アルト、テノールなど独自の解釈を入れ

て、自分達のクラスオリジナルの曲をつくっていったことです。これも一人一人が案を出しあって完成しました。なので、グループごとに分かれて練習するとき、互いに意見を言い合い、完璧になるようにしていきました。

3つ目は団結し合ったことです。本番当日あまりクラスみんなそろっての練習はしていませんでした。しかし、自然と不安はありませんでした。それはこの1年間、ケンカをすることもあったけど、ほつま祭・体育会など、さまざまな行事をお互いに協力し合い乗り越えてきたからです。

結果は優秀賞。最優秀賞にはおしくも届かなかったけど、僕はこのクラスでよかったと思える合唱コンクールでした。今のクラスはあと残り1か月位だけど、球技大会、ゆずり葉の会などの行事も団結し合って過ごしていきたいです。



中2学年集会

2月18日(水) 於 浅回市民会館金光

修学旅行事前学習「僕とウチナーと美ら海と」

学年集会云

1組 清水 美沙

学年集会で「GAMA・月桃の花」という映画を観ました。以前にも「ひめゆりの塔」という映画を観ましたが、先輩からもっと怖いと聞いていたので、覚悟して観ました。そしたら本当に怖かったです。特に、実際の映像が使われていたところは、手で顔を覆ってしまいました。今から数10年前に沖縄で本当にあったことだと思うと、胸が痛みます。赤ちゃんの声を押し殺そうと母親が強く抱きしめた結果、赤ちゃんが亡くなったり、足をケガした人がその場に置いてけぼりになったりと、とても悲惨な戦争だったことがよ



く分かりました。

次に、各クラスの出し物がありました。5組はすごく面白かったです。私たち1組は、沖縄戦についてでした。1組の劇はとてもシリアスだったので大丈夫かなと思っていましたが、みんな大きな声を出していてすごくよかったです。特に、「今、私たちが、当たり前のように過ごしている時間は、戦争の時代を生きた人々からの大事な贈り物」という呼びかけのころは、「GAMA・月桃の花」を観たせいか、泣きそうになってしまいました。私たちの伝えたいことが、見ている人に伝わったらいいなと思います。

家に帰って、母親から、「1組が1番良かった。」と言われて、すごくうれしかったです。修学旅行では、しっかり学んで遊んできたいです。

学年集会を終えて

2組 安達 しほ

今日は学年集会があった。自分としては、良い会になったし、良い雰囲気で作られたなと思いました。思い出に残る会になりました。

映画では、改めて沖縄戦の恐ろしさがかかった。観てられないくらいむごい場面ばかりだった。今の時代に生まれて、本当に良かったと思います。沖縄に行ったら、戦争のことについてしっかり学びたい。

クラスの出し物は、どのクラスも良かったけど、2組がいちばん良かったと思いました。沖縄の自然・地理が上手に伝えられたのは、クラスみんなが協力し、団結できたからだと思う。私たち実行委員についてきてくれたクラスみんなに感謝したい。これがクラスみんなでの最後の出し物だと思ったら、さみしいような、うれしいような、そんな気持ちになりました。私は、この2組になれて、



本当に良かったと思います。

実行委員では、前日からいろんな準備や企画で考えたりするのが大変だった。私は、副実行委員長だったということもあって、閉会のあいさつをしなければいけませんでした。今までこういうことをしたことがなかったので、言葉を考えるのが意外と大変だった。本番はすごく緊張したけど、つまらず間違えずに話せたので良かったです。

この学年集会で学んだこと、発見したことを、4月の沖繩修学旅行に活かせるように頑張りたい。

初めての司会

私は今日の学年集会を楽しむことができました。

まず1つ目は、今年の実行委員になったので、とてもたくさんさんの仕事をしました。たとえば〇×クイズの問題を考えたり、

3組 水田 健斗



会場の準備をしたりと、いろいろな仕事がありました。今まではこういうのは面倒だとばかり考えていましたがこうやってみんなでやっていると、こくいうのも悪くないなあ、と思いました。

次に2つ目です。今度はクラスの出し物のことです。私のクラスは班の人が調べたものをまとめ、発表するという形でした。そして私は、調べる人でした。その中でも私は沖繩の基地問題の中の本土復帰後について調べました。情報が少なかったのですが、内容は少し薄くなりましたが、発表者のおかげできれいにまとまりました。

そして3つ目です。1つ目に言った〇×クイズのことです。〇×クイズの司会がやりました。あまりにもおかしいと友人には言われたりしましたが、まあよかったのでしょうか。

今回の学年集会は、運営するほうも少しやったのでとても楽しく疲れましたが、充実した学年集会になりました。今回手に入れた知識を使って、修学旅行も楽しみたいと思います。

問に合うかな。

4組 藤田 沙彩



私たちは間近にせまった学年集会に焦っていた。まだ何も決まっていなかったからだ。直前にインフルエンザが流行ったせいもあり、大幅に遅れていた。同じ班の人からテーマを聞いても、何も考えが浮かばず、1分の寸劇なんて無茶だと思っていた。しかしなんとかベースを作り、少しでも面白くなるように改良していった。本番で一杯の力を出してやりきると、スカッとした気分になり、楽しいと思えた。

他のクラスの出し物はとても完成度が高かったが、副校長先生の言葉で、「楽しそうだった。」と言われたのがすごくうれしかった。

「GAMA〜月桃の花〜」では、前見た映画「ひめゆりの塔」よりは少し難しい内容だったが、家族が一人ずつ戦争のえじきになっていく描写に涙が出た。

子どもをかばって亡くなったおじいちゃん、足を負傷して、おいていかれるしかなかったおばあちゃん。もしこれが自分の家族だったら……と考えると、胸がおしつぶされるようだった。

ガマでの生活も、ひどく辛かっただろうと思う。自分の子どもを自分の手で殺してしまった罪は死んでも拭えない。それでもたくさんさんの思いを背負って生きている当時の人々の心は、私たちには想像できないほどのものだと思う。

村人たちと軍人たちの思い。村人は、外に出してくれなかった軍人を恨んでいただろうが、軍人は、国の為にささげた命なら最後まで、と考えていたのだろう。当時の人たちの気持ちを考え、これからいかにしていくことは私たちに必要なことである。当たり前なことほど忘れやすい。これまでに学んだこと、これから学ぶことをしっかりと心に刻もうと思う。

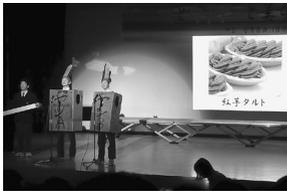
学年集会を通して

5組 石本 皓南

先日、僕たちは修学旅行で行く沖縄のことに、前々から調べ、学年集会で

発表した。

僕たち5組は、「沖縄の文化」をテーマとしたギャグなどを取り入れた寸劇をした。光畑 君を中心にストーリーを考え、役割をし前日まで練習をしてきた。自分たちの発表は基本的に笑いが中心であったが、プロジェクターなども利用して沖縄の良い所を伝えることができたと思う。本番もとても楽しめたし、他のクラスの発表も楽しんで観ることができた。



もう一つ今回の学年集会で印象に残っていることは、「GAMA〜月桃の花」という映画を観たことだ。現代の人が戦争の話を体験者に聞くという物語であった。ガマへ向かう途中、ガマの中でのことが良く分かった。また、唯一、地上戦が行われた場所だと知った。一般市民も多く巻き込まれていた。落ち着く場所を見つけてもすぐ兵士たちに占領されてしまい、また銃弾が飛び交う中を歩き周らなければならない。



そんな場面を多く見て戦争の悲惨さをも感じた。

辛い事を学び、楽しく沖縄について学び、多くの事を学んだ。来年度、沖縄に修学旅行で行く際には楽しむことはもちろんだが、しっかりと沖縄戦争の足跡をしっかりと胸に焼き付けなければならぬ。自分たちには、知る責任があると思

生徒入賞作品

昨年、第19回岡山県高校生英語エッセイコンテストが開催され、本校から高2 神原佑奈さんと木村愛さんが入選に選ばれました。また、第9回岡山県高校生英語レターコンテストでは、高1の木村恵子さんと目黒達之君が入選に選ばれました。おめでとうございます。

高2 神原 佑奈

End of the World and Eschatology

I learned from books that there are many kinds of religions and myths all over the world. They were believed by a great number of people until recently. Even people who don't believe or are not interested in religion must have heard something about them. These beliefs all have something in common. They each have End in their scriptures and collections of poems. End means the demise of the world — in short, all life—not only humankind and animals but also gods—die out and disappear from the world, with only a few living on in the new world after the world has ended.

Christianity is the religion which has the most Ends. Genesis recorded in Christian scripture—the Old Testament—describes some Ends. For example, Noah's Ark is a tale where God was going to stop the evil of humankind from increasing too much with a flood. God told a good man, Noah, who was following God, to make an ark. He boarded it with his family and pairs of all animals, and then they survived when the land was covered with the flood. Also, in Paradise Lost, Adam and Eve were enticed to eat forbidden fruit by a snake, though God told Adam not to eat it. The fruit brought wisdom of good and evil, and they were banished from the Garden of Eden because God was afraid that they would eat the fruit of life and get immortality. They didn't die in the End. Adam lived to the age of 930 but the time where they could get blessings from God for free was lost. Their Eden had ended.

Another religion, Hinduism, has a god of destruction called Siva. Siva is identified with Daikokuten of the Seven Lucky Gods in Japan, and plays a role in the destruction of the world which has come to the end of its life, and prepares for the creation of the next world. In Norse mythology, a tale of End called Ragnarök was written in Edda. Ragnarök means the day of End. On that day, Heimdallr blew Gjallarhorn to tell of the start of the last war. All the gods fought evil spirits and giants—all beings that had been captured by that day. Many gods were killed and lives lost in the great war. At last, the world was burned by flame and the nine homeworlds sunk into the sea.

These religions and mythology have different Ends. After each End, a new world was created and the survivors became progenitors. They have a lot of morals. They tell us that if we do something evil, we'll pay for it sooner or later. Conversely, if we follow our gods and do something right, we'll be saved from difficult situations. These are the same morals that are shown many books and fairy tales our mothers read to us when we were children. Their stories taught us what is right or wrong. People might have aimed at such an effect in the past. If that is right, humankind doesn't change. There isn't a big difference between the past and the present. We cannot stop evil behavior if we are without morals and depend on warnings to keep our precious, orderly, and happy life. I doubt that our ancestors really ate forbidden fruit!

Title: Using Smartphones While Walking

In recent years, using smartphones while walking has become a social problem in Japan. The number of people who were taken to hospital because of accidents caused by using a smartphone while walking is increasing year by year. 122 people were hospitalized during the last four years and one of these died. The people who are harmed are communing old people, children and visually impaired people. It is dangerous for the person and also others, so there are public opinions about whether we should make regulations about it.

New Jersey has already made regulations. Since 2012, Violators must pay an 85 dollar fine. This April Yahoo conducted an attitude survey, 75 percent of the about 50,000 respondents answered that it was necessary. A man who uses his smartphone while walking said, "I understand it is dangerous but I thoughtlessly do it when I' m in a hurry. If regulations are made I would stop doing." There are already regulations about smoking while walking in some communities. A lot of people agree about making regulations about using smartphones while walking on the basis of these facts.

However a lot of people disagree because it is not necessary. Professor Tokuda Katumi, who is knowledgeable about the issue of using smartphones while walking says "Starting with regulations is absurd. First of all education is needed. Many people used cellphones in the train when they first became popular but now that is not often seen. Moreover though smoking is not allowed in many places, the people who really want to smoke can smoke in designated smoking areas. If we must not use smartphones while walking, we need the place where we must use them."

Railroad companies, local governments and cellphone companies have launched public education programs which prevent the use of smartphones while walking. Railroad companies and transportation bureaus in Kansai put up posters saying "Stop using smartphones while walking" in stations last year. Railroad companies in Kanto put up posters about preventing accidents at the end of last year and the beginning this year. NTT docomo put outdoor advertising in Sinjuku Station and added an application which prevents the use of a smartphone while walking.

You don' t want to hurt yourself by using a smartphone while walking, do you? You don' t want to hurt someone else by doing it, do you? If regulations about it are made, a lot of people quit it. We should be conscious of not doing it, even if regulations about it aren' t made. For others' safety and for my safety.

Dear my best friend

How are you? I'm fine.

Do you get along with your family?

Do you get along with your friends?

Do you get along with your girlfriend?

I want to know you.

I'm a little worried because you sometimes overdo it. You don't talk with a person and you are going to solve things alone. Stress will pile up.

Please sometimes rely on a person than you do your best alone. Then, you must have some good discovery. I don't tell you a lie.

But... I may sometimes tell a lie after all.

Now, I'm not honest. You will know it.

I can't say the real intention when I really meet you. We first met when we became junior high school students. Ever since, we have done various things. We talked for a long time on the phone and played games. I fought against you a lot too. But we are still good friends.

It is because you are tend. When we fought, you apologized earlier. I was saved by your gentleness. I always relied on you.

But... you never relied on me. Why? Am I so unreliable? I want you to rely on me. You do your best well. I don't want you to hold all things alone. Rely on me. I've showed before, but I'm not honest. So I can't ask you to rely on me. As a result, I told you in this letter.

I have told you the dark detail. Sorry, it is not like me. I'm going to have a little bright talk from now on. According to the song I like the best, "Your greatest ally is reflected back at you, right? That's the proof of life." I think it is very wonderful. How about you?

Of course, I'm your ally. You are glad, aren't you? So you enjoy your life! Then, happiness will come!! I guarantee it!!

If you are alive, that girl whom you love might turn around.

If you are alive, you might win the lottery!

If you are alive, it might begin again!!

These are very wonderful, aren't these? Let's enjoy living our life!

So rely on me anytime if you have a trouble. I might not be able to give you a good advice... But I think hard some good advices! Because we are best friends! So, you must not over do it! It is a promise!!

Last but not least, let's play again!! See you again!

From Keiko Kimura

To: My Host Family in Kansas City (U.S.A.)

Hi! Long time no see.

How are you doing? A few weeks have passed after I came back to Japan. I really still missed Kansas City. And now I'm enjoying my next term. But I sometimes reminisce about my stay I had a blast. It gives me a courage and power. The experiences I spent in Kansas City is my treasure. I often tell my friends what I did in Kansas City, what America was like and so on.

By the way, these days my school had some students from Korea. My school has a relationship of sister school with Korean school. Although I wanted to have a student at my home, I couldn't do it because of my parents' job. But that's fine. Because we had an opportunity that we took a class with them. I enjoyed a lot instead of couldn't have them at my home. I talked a lot about difference between Japan and Korea. I tried to let them enjoy in all different situation for them, as you did for me. I owe it to you that I really enjoyed my stay in Kansas City. So I do it for another one as you did for me. I think it is what I can do. I hope they enjoyed their stay at our school. And I want to be a bridge between Japan and many countries. Japan has nice things. On the other hand, other countries have their virtue as well. So, I tell Japan's and absorbs others.

So, I want to keep practicing English and improve my English skill so that I can do what I said before.

TAKE CARE!!

Sincerely,
Tatsuyuki

| 入賞おめでとう | |
|---|---|
| <p>▼第21回犬養木堂顕彰児童生徒書道展</p> <p>入賞 中3 中1 中3 河村 悠彦 中塚 心愛</p> | <p>▼平成26年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」 岡山県知事賞（最優秀賞）</p> <p>土木部長賞（優秀賞） 中3 高原 健</p> <p>防災砂防課長賞（佳作） 中3 谷野 竣哉</p> |
| <p>▼第161回書き初め展</p> <p>金賞 中1 小寺 彩巴</p> <p>中2 荒島 美音 金光美千世 松本 椋平 藤澤 友菓</p> | <p>▼第39回近県書き初め展</p> <p>福山書道連盟賞 中1 福嶋 杏樹</p> |

▼第1回 言の葉大賞

優秀賞 高校生部門

『一生ものの言葉』

高1 豊田 茉佑

私は、自分の名前が好きだ。また、人の名前の由来を聞いたり、名簿を見ながら名前の読み方を考えたりするのも好きだ。名前は、自分と切っても切れない縁で結ばれた言葉だと思う。もしかしら、人生の中で一番使う言葉かもしれない。名前は、とても大事だ。「名が体を表す」とも言う。親の気持ちに詰まった、自分だけの大切な言葉なのだ。

たまに、自分の名前は平凡だから嫌だ、と言う人がいる。しかし、その人に名前の由来を聞くと、とてもいい話が出てくることが多いのだ。優しい子になってほしい、賢い子になってほしい…。親の強い願いをたつたの数字文字に集約する。こんなに人の思いが詰まっている言葉はほかにはないだろう。

私の名前は「茉佑」と書いて「まゆ」と読む。漢字は人名用漢字なのでわかりにくいと言われることもあるが、読み方はいたって平凡である。「蚕の繭のよう

に人を包み守る人になってほしい」という親の願いから名付けられた。名付けてくれた親に感謝しているし、いつか由来通りの人間になりたいとも思う。

きつと、名前に何も由来がないという人はいないはずだ。親の願いが詰まっているし、何かしら裏話がある。生まれてからすぐ、病院のベビーベッドにネームプレートをつけられる。死んでからは、墓石に名前が刻まれる。一生背負っている言葉なんて、名前以外にないのではないか。親からもらった一生ものの大切な言葉である名前。ぜひ、もう一度見直してみてほしい。そして、自分の名前を大切に生きて行ってほしい。

▼第60回 青少年読書感想文岡山県コンクール結果

中学校の部 自由読書入選

『僕はこれからどう生きるか』

中3 高垣 絢

「君たちはどう生きるか」と聞かれたとき、すぐに答えられる人は決して多くないと思います。まだ人生のことを深く考えたことはないし、そもそも生きるということとはどういうことなのか知りません。

この本では、コペル君という中学生が色々な事を経験して、山あり谷ありの人間としての一生を、どういうふうに生きていったらいいのか、というのをおじさんと一緒にさがす話です。クラスでの事件、おじさんとの会話、友達との会話から得ることを読者に分かりやすく教えてくれます。

この本の作者は、『どう生きてゆこうか』と考えたり、『どう生きてゆくのが正しいのだろうか』と疑ったりするのは、人間が人間であるという証拠ともいえることなのです」と言っています。普段、僕たち人間が生きていて、つらいことにおつかりと、草や木や、鳥や動物を無心だからといつてうらやましくながめることがあるだろうと思います。しかし、草や木や、鳥や動物は、ただいぢらずに生きているだけで、自分の生き方を問題にしたり、気にかけてりしません。人間であるからこそ、『どう生きるか』と考えることができます。だから、僕は人間として一生懸命に人生を生きていきたいと思えます。僕の思う理想の人間とは、世間の目よりもなによりも、自分が良い判断をしたときにわき出てくる、いきいきとした感

情をつらぬいている人がいいと思います。たとえ、周りの人の考えがどんなに浸透していても、自分の考えは貫いていった方がよいと思います。人の目につける自分の姿を気にして、本当の自分がどんなものかということをお留守にするような人にはなりたくないと思います。

世の中は、沢山の人の努力の結晶が集まってできています。製品を生産して消費者のところへ届くまでのことを考えてみると、沢山の人が関わっていることが考えられます。この世界は、どんなに距離があっても、切っても切れない関係にあると思います。つまり、人間は、みんな、見たことも会ったこともないたくさんの人と、知らないうちに、あみのようにつながっているのだと思います。僕の考えでは、人間はおそらく水の分子のようなものだと思います。一人一人の人間がこの世の中の一分子であり、みんなが集まってこの世の中を作っています。そして、みんな世の中の波に動かされて生きています。しかし、人間は分子と同じようには全然1つに統一されているわけではありません。それぞれが異なる個性を持っています。それぞれの個性があつてこそ、

討論や話し合いがあり、それによって世界が良くなっているんだと思います。

この本では、主におじさんがコペル君に生きる中で大切なことを一対一の形で直接的に教えるものと、「おじさんノート」というものを通してコペル君に教える間接的なものの2通りがあります。もちろん、どちらも分かりやすく、読んでいる側も納得するような内容ばかりです。その中で特に心に残っているものがあります。コペル君は友達と固く約束をしたにもかかわらず、過ちを犯してしまい、約束を破ってしまいました。普通なら謝るのに、裏切られた友達の反応をおそれあやまるうとはしませんでした。そのときに言ったおじさんの言葉です。「コペル君、勇気を出さなけりゃいけないだよ。どんなにつらいことでも、自分のしたことから生じた結果なら、男らしくたえしのぶ覚悟をしななくっちゃいけないんだよ。考えてごらん、君がこんどやった失敗だって、そういう覚悟ができていなかったからだろう？」と、「またあやまちをかさねちゃあいけない。コペル君、勇気を出して、ほかのことは考えないで、いま君のすべきことをするんだ。

すぎ去ったことは、もうなんとしても動かすことはできない。それよりか、現在のことを考えるんだ」の2つです。僕も友達との約束をわざとではないけれど破ってしまったことはあります。そのときは、どうしても友達に顔が頭に浮かんであやまるのができませんでした。結局、その友達にはあやまりましたが、もつと早く言っておけば良かったと後悔しています。

この本を読んで1つ自分の悪いところを見つけました。それは、自分のやる事にたくさんの自信が持てないということです。僕はテニスをやっています。テニスの試合で重要なポイントの時にになると、自分のプレーに自信が持てなくなつて、慎重にやりすぎてミスをする場合があります。そういう時ほど、自分のプレーに自信を持って、失敗をおそれず、しっかり相手と向き合つて、自分のテニスをしたいです。

これから社会について知り、終えた頃にはもう大人です。これからの人生は自分で切り開いていくものです。どんな失敗をしても、前向きに生きていきたいです。



ある日のホームルーム

ハンナ・アスクさんありがとう



高校1年6組

2月6日(金)に高校1年6組のホームルームの様子を取材させて頂きました。今回は、1年6組の留学生のハンナ・アスクさんの送別会が行われていました。

ハンナさんはノルウェーからの留学生で、4月より10カ月間クラスの仲間と過ごしてきました。初めは英語の授業を中心に授業を受けていたハンナさんでしたが、月日が流れてくると日本語での授業にも出席するようになりました。担任の守分俊浩先生は「みんなが留学生だったらどうする?ひとり来て仲良しの子もまだ周りにいない。この留学がいいものになるかどうかはみんな次第だよ」とクラスに呼び掛けました。6組の教室に行くとハンナさんがごく自然な様子で友達と楽しそうに話していました。カタコ

トだった日本語は、友達みんなと過ごしているうちにみるみる上達し、「よく使う言葉は?」と聞くと「マジジとか、かわいい」かな」と教えてくれるほどでした。

ハンナさんが登校する最後の日、クラスみんなは送別会を企画していました。守分先生から「送別会やりたい?」



と尋ねられたことをきっかけに、自分達で内容を考え準備をしたのです。「ハンナを喜ばせたい」と、6組のみんなは色々企画を練りました。会場に入ると、大きなホワイトボードがあり、ハンナさんの似顔絵やナルトなどのアニメのキャラクターが描かれていました。クラスの女の子が「ハンナはナルトが好きだから」と嬉しそうに話してくれました。

日本の流行の曲名を当てるイントロクイズでは、実行委員がホワイトボードの裏側で、CDを次々用意して「再生」と「一時停止」を真剣な表情で押していました。イントロクイズに使うCDは自分達で集めたそうで、何分何秒からメロディやサビが流れるのかを細かくチェックしたノートを作っていました。知っている曲が流れると、「これ聞いたことある」とそれぞれ相談していて和気あいあいとした雰囲気



気で会は進んでいきました。

ハンナさんの故郷であるノルウェーに関するクイズは三択問題で、「ノルウェーと日本との時差は？」などの問題に挙手で解答しました。みんなと一緒に思わずハンナさんも手を挙げて、途中で答えが分かっただけで笑った場面もありました。それぞれのテーブルに飾られていたお花の飾りには、「ハンナありがとう」とたくさん書かれていました。手作りの送別会は、クラスのみんなの協力と温かな気持ちでもとても和やかな雰囲気でした。

送別会の最後にはクラスの友達から別れの手紙が披露されました。手紙を読むうちにだんだんと涙が滲みました。サプライズで、クラスのみんなまでトトロの大きなぬいぐるみを用意しました。ハン



ナさんはとても喜んでいました。送別会終了後、中心メンバーの一人の佐藤伸樹くんは「ハンナが喜んでくれて嬉しかったです。ここまで準備してきたけど、今日を迎えてみるとあつという間だった」と、自信に満ちた表情で語ってくれました。

翌日、ハンナさんは帰国の途につきましたが、授業が終わってすぐ空港まで送りに駆けつけた生徒もいました。空港では時間ぎりぎりまで話をしたり写真を撮ったり握手をしたりする姿がありました。ハンナさんが搭乗後、みんなはすぐに屋上へ。「ありがとう」の看板を持ち飛行機に向かって思い切り手を振る姿が、とても輝いて見えました。今後もひとつひとつの出会いを、かけがえのない素敵な出会いに作りあげてくれることを期待しています。



AFS留学生紹介



こんにちは。ノルウエーから来た留学生のハンナ・アスクです。

学園に来たころ日本語がほとんど話せませんでした。友達が出来るかとても心配でした。けれどクラスメートはみんな優しく教えてくれました。私がいけない時クラスメートはいっしょけんめいりかい出来るように伝えてくれました。じしよを使ったり、絵を描いたり、色々なほうほうで分かるまで説明してくれました。だから私の学園生活はとても楽しく始まりました。

ノルウエーにいた時、日本の先生はとても厳しくて怖いと思っていました。でも学園の先生方はすごく優しく、親しみやすく生徒と先生の関係は友達のようにだと思えました。

制服はとても可愛くて、毎日着るのが楽しみでした。ノルウエーの高校では制

服がないので毎朝じゅんぴに時間がかかっていました。なぜなら、フアツションなどがいい人かほんたう事もあるからです。制服だとみな見た感じが同じなので、その人がどんな人かはつき合つて、その人のないめんできいかいします。それはとても大切で良いと思います。



私は入学してすぐにバスケット部に入りました。バスケット部のメンバーも優しく受けてくれました。ルールが分からなくて、はんそくをした時キャプテンやメンバーはやって見せてくれて分かるように説明してくれたのでだんだんとルールがりかい出来るようになりました。夏のれんしゅうはとても暑くて、くるしかつたです。みんなやる気がなくなつた時、先

生は厳しく、怒りました。初めのころ、私は「ちよつとひどいな」と思いました。けれどバスケットを続けることで、その厳しさが心を強くし頑張れることだと学びました。先生の厳しさは私達を強くするためだと分かりました。

ほつま祭と体育会は初めてのけいけんでした。美味しい食べ物やステージを見たり、とても楽しかったです。どのクラスも一生懸命作っていてすごいと思いました。写真もたくさんとりました。それから体育会では面白いリレーや初めてのきょうぎがいっぱいでした。おうえんするためにはたを作ったり、はちまきを作ったのも楽しい思い出です。学園のみんな、この11ヶ月本当にありがとうございました。

高校1年6組

ハンナ・アスク

※文中の表記は本人の表現のまま掲載しております



生徒会活動

《中学生徒会》

次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月8日に公示され、中1・2の10クラスから12名（男子11名、女子1名）が立候補した。14日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。公約には下校時飲食の解禁や服装の規定緩和、食堂メニューの増加など生徒目線の公約が目立った。17日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できる良い機会となった。20日の投票の結果、会長に2年の陽奥聡一郎くん、副会長に1年の西山大智くん、1年の大原綾綾華さんが当選した。認証式後、2月5日に新事務局員募集のための説明会を行った。中1・2から30名以上が参加をした。会終了後の第一次意思確認では、多くの参加生徒が「事務局員をやりたい」と名乗りを上げた。しばらくは現事務局員と一緒に活動し、3

月12日の春季球技大会や3月17日に行われる中学ゆずり葉のなどの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから新事務局員を決定する。

3学期の常任委員会の活動はまよめの時期であった。生活委員会では、朝のあいさつ運動、ポスター作成に取り組んだ。図書委員会では、お勧め本や人気のある本の紹介と、図書室のマナーについて呼びかけるための「だより」を発行した。保健委員会では、健康観察の実施、教室内における二酸化炭素の測定、掃除用具の点検などをおこなった。

《高校生徒会》

2月6日（金）、第2回生徒会総会が小体育館で行われた。学年代表者会議・各種委員会・生徒会主催の行事および生徒会執行部・事務局の活動について総括が報告され、賛成多数で承認された。

《部活動》

天文部気象部 12月、3夜にわたり中学棟屋上天文台で変光星アルゴルの観測を行った。

よいデータがたくさんとれたので、放課後解析作業を日々行っている。

1月、岡山大学で行われた「集まれ！科学への挑戦者」に6名が参加した。「天空の花火「ペルセウス座流星群」の研究」について発表を行ったグループは、優秀賞をいただいた。

3月、大阪大学豊中キャンパスで行われる天文学会Jrセッションに6名の生徒が参加し、2つのテーマについて口頭発表・ポスター発表を行う予定。

生物部 遥照山に生息している動植物の種類や、生態系のように日々観察している。3月に本校で行われた国際化発表会では、今まで蓄積したデータを基に、遥照山の生態系の変化をまとめたポスターを英語で制作した。

電気科学部 中学は12月7日鳥根県出雲市で行われた創造アイデアロボットコンテスト中国四国大会に、中3松本 中西・小出・谷野が出場したが、予選リーグで敗退。

SSHよりレゴマインドストームを購入してもらい、来年度の大会への準備に入っています。

中・高校美術部 中学では12月21日に行われた金光キッズフェスティバルに中三生徒2名・中二生徒2名・中一生徒1名

の者がクリスマスを題材にした絵画を出品した。高校では第38回岡山山県高等学校総合文化祭参加・第47回岡山山県高等学校美術展に高2生徒2名(立体・絵画)・高1生徒2名(絵画)を出品、高1水畑翔賀が特選に選ばれ来年度の全国高等学校総合文化祭に出品することが決まった。

中・高書道部 第51回創玄展全国競書大会学生の部にて高1小寺祐利が全国競書大会委員長賞、高2母里朱香音、藤井一嘉、高1藤井基輔、中2坂口小枝が推選、高2三木佳苗、高1岡桜子が特選を受賞した。また今大会は書道の授業生徒と書道部、中学生有志で出品し団体としても「優秀団体賞」を受賞した。ほかに成田山競書大会や熊野ふれあい書道展などに出品した。

茶道部 11月24日に竹園会が碧水庵で行われ、日頃の練習の成果を披露した。現在は3月22日行う玉島高校との交流茶会に向けて練習に励んでいる。

音楽部吹奏楽団 11月8日(土)に里庄東小学校を訪問し、校歌の他に「妖怪ウォッチコレクション」、「かっぱれFUNKI」など10曲を演奏した。11月16日(日)に金光町音楽祭「ぼよん行進曲」

など3曲を演奏した。11月22日(土)のVIVA ASAKUCHI 2014では「Make her mine」「瞳を閉じて」「ジャパニーズ

グラフィティIV弾厚作作品集」を演奏後、中西圭三さんと共演し「ぼよん行進曲」などを演奏した。11月23日(日)のバンドフェスティバルでは、「サンダーバードは飛ぶ」「ジャパニーズグラフィティIV弾厚作作品集」を演奏した。12月20日(土)の4Kコンサートでは「かっぱれFUNKI」など4曲を披露し、合同で「第九ブラスロック」を演奏した。12月25日(木)はイルカの家を訪問し、「ジングル

ベル」「青い山脈」「きよしのズンドコ節」など16曲を演奏した。1月10日(土)11日(日)は第46回岡山県アンサンブルコンテストがあり、中学生の部にて木管5重奏と金管8重奏が出演した。木管5重奏は銀賞、金管8重奏が金賞を受賞した。1月24日(土)は第58回高梁川流域ジョイフルコンサートがあり「スピリテイックドアウェイ」を演奏した。

音楽部コーラス 11月8日(土)・9日(日)に福山市にある老人ホームの幸楽園となごみで訪問演奏を行った。どちらも童謡や懐メロを中心に披露し、途中、

部員が隣まで何い一緒に歌い、手遊びをするなどして交流を深めることができた。

11月16日(日)に浅口市民会館金光で行われた金光町音楽祭に参加した。ステージは幅広いジャンルの構成だったが、練習の成果を十分に出すことができた。

【曲目】恋のダイヤル6700、まちぶせ、ヨコハマストーリー、もう一度
12月22日(月)に部内でクリスマス会を開催した。

12月23日(日)に金光町の老人ホーム寿光園で訪問演奏を行った。初めての場所で緊張した様子だったが、利用者の方の温かさに支えられ、交流を深められた。

12月26日(金)は午前中に倉敷にある玉島保育園、午後に大内保育園で訪問演奏を行った。クリスマスソングやアニメソング、部員がつくった劇を披露したりしてお互いに楽しい時間を過ごした。また、演奏の後、園庭で園児たちと一緒に遊び、童心に帰った。

1月24日(土)に笠岡市民会館で行われた高梁川流域音楽会ジョイフルコンサートに参加した。多くの学校の発表を

聴き、刺激を受け、自分たちの演奏も精一杯することができた。

【曲目】恋のダイアル6700、明日へ続く道

2月8日(日)に早島町民総合会館で行われた第22回岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテストに出場した。以下、結果と曲目。

【ジュニアの部】《全て女声で参加》金賞「かりゆうど」銀賞「そらめ」「星月夜」「じょうりぎ・とうかんや」銀賞「アイウエおはよう」「へらへらの神様」

【高校の部】金賞《女声》「糸繰り」「一切朝花」金賞《男声》「空と牧場のあひだから」銅賞《女声》「ある時」「だんす」なお【高校の部】金賞《女声》のグループは部門の1位に選ばれ、3月に福島県で行われる第8回声楽アンサンブルコンテスト全国大会に推薦された。加えて、ジュニアの部、高校の部、一般の部を通して最も優れた演奏をした団体に贈られるグランプリも受賞した。

英語部 今年度の部員は高校3年生8名のみだったので、3学期は特に活動はなかった。来年度、新規に部員を募集し、新たな計画を立てて活動していく予定。

写真部 各自それぞれ創作活動をおこなっている。

中放送部 1月20日(火)に行われた生徒会長選挙に向けて、政見放送制作に取り組んだ。制作は中1、2を中心に行い、立会演説や選挙活動の映像の撮影・編集、政見放送事前収録のサポートなど、協力して取り組むことができた。また昨年、「第3回晴れの国おかやま映像コンテスト」で「部門賞」を獲得したCM「人を育み、人を大切にする町 浅口市」が、浅口市の地域貢献に寄与したことが評価され、同月22日(木)に浅口市役所で感謝状が贈呈された。最後に、昨年行われた「第31回NHK杯全国中学校放送コンテスト全国大会」の「テレビ番組部門」で優良賞を受けた作品「LINEと中学生」が、「平成26年度岡山県学校文化関係表彰」に選ばれ、2月9日(月)に県庁で表彰を受けた。当日、7分間の番組を約1分間に編集した番組を披露。その後、制作を通じての感想を部員が述べた。

この1年間で、8名の新入部員を迎え、学校行事や番組・CM制作など様々な取り組みを行うことができた。

高放送部 高1・高2の部員で2月21日

に市民会館金光で開催された高2音楽選択者の発表会に協力した。また、3月8日に開催された国際化の発表会にて、2年を中心に司会の仕事などを行った。

科学部 岡山大学環境理工学部名誉教授である坪井先生にご指導いただきながら、竹炭電池を作ったり、作物に竹炭を与えたり、また水の浄化作用を調べたりするなど、竹炭の効果・効能を調査する実験を日々行っている。また、様々な水溶液を電気分解し、発生する気体を検証した研究について、本校で3月に行われた国際化発表会では英語でのポスター発表も行った。

軽音楽部 部員は現在20名。活動形態は週1回各バンドで練習している。

文芸部 1月には「F4番目の秘密」と題した今年度3冊目となる習作集を制作し、批評会を行った。また、2月には卒業記念集を制作し、3人の卒業生に贈るとともに、3月に批評会を行った。

中・高陸上競技部 2月15日に兵庫県で行われた第98回日本陸上競技選手権大会に清水沙紀が参加した。ジュニア女子5km競歩に出場し、ベストを尽くした。周回の選手から刺激を受け、多くの学びが

あった。

また、陸上競技部では一人ひとりが自ら考えて、自分自身と向き合いながら毎日の練習に励んでいる。

ラグビー部

12月20日(土)から美作市長杯ラグビーフットボール大会に参加。

プレートグループ1回戦は岡山朝日高校に0-14で敗れるも、翌日のチャレンジグループでは合同(高松農・創志学園・林野・鴨方高校)に29-10で勝利。平成27年1月3日には正三会を実施。多くの卒業生から暖かい応援とカンパをいただいた。1月11日からは新人戦がスタート。1回戦は合同(津山高専・一宮高校)に31-24で勝つも、2回戦は津山工に10-48、敗者2回戦でも関西高校に12-34と敗れた。

中男子ソフトテニス部

寒さが厳しい時期ではあるが、春に向けて練習を重ねている。2月14日(土)に第9回びんごチャレンジカップにA・B・Cチームが出場した。B・Cチームは決勝トーナメントの初戦敗退であったが、Aチームはベスト8に入った。引き続き日々の練習で心身ともに鍛えたい。

中女子ソフトテニス部

寒さの厳しい冬

の時期も、朝の練習にも多くの部員が参加し、基礎体力と技術の習得に励んでいる。3学期には研修大会や交歓試合に参加して試合経験を積み、来シーズンに向けての準備を進めている。

高男子ソフトテニス部

11月15日(土)16日(日)に岡山県内の中・高運動部活動連携強化推進事業としてソフトテニス合同練習会がおこなわれ、県大会に出場した高1約90名と中体連の推薦選手が集まり、小林幸司氏・杉本瞳氏を講師に招いて強化練習をおこなった。本校からは黒川・三宅祥・石原の3名の1年生が参加し、県のトップレベルの選手と交流しておおいに刺激をうけ、技術を高めた。

2月7日(土)には岡山県技術等級ソフトテニス大会がおこなわれた。岡山総合グラウンド内テニスコートでおこなわれた中級の部には県大会出場経験のある3ペアが出場したが、それぞれ予選リーグで敗退した。水島緑地福田公園でおこなわれた初級の部にも3ペアが出場し、そのうち渡辺・卜部組は第3位となり、表彰をうけた。

高女子ソフトテニス部

2月岡山県高等学校技術等級大会に、西山・佐々木組、

塚本・赤澤組の2ペアが出場。

冬の寒い期間も県大会出場を目指して、日々練習に励んでいる。

中卓球部

11月9、10日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで御南に3-2、新田に3-2、勝北に2-3の2勝1敗でベスト16であった。女子団体では予選リーグで妹尾に3-2、北房に3-1、新見第一に2-3の2勝1敗でベスト16であった。男子個人では升本(L2)がベスト32、安東(L2)と古賀(L2)と原田(L1)は1回戦敗退であった。女子個人では徳毛(L2)と森藤(L2)が2回戦進出、藤(L2)が1回戦敗退であった。

11月15、16日に総社市長杯卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグで京山に0-3、平田(鳥根)に1-3、竜操に3-0で3、4位トーナメントに進み、準々決勝でなくスポ少に3-0で勝ち、準決勝で玉湯卓球クラブに3-1で勝ち、決勝で瀬戸内スポ少に1-3で敗れた。女子団体では予選リーグで倉敷北に3-1、妹尾に3-1、大麻(徳島)に3-1で勝ち、決勝トーナメント1回戦で鳥取大附属に3-0で勝ち、準々決

勝でT・Cマルカワに0―3で敗れたがベスト8に入った。男子個人では安東と升本が予選を通過し、2回戦で敗退した。女子個人では一般の部で内山(L3)が予選を通過し、中学の部では谷口(L2)と徳毛と森藤と丸野(L1)が予選を通過し、森藤がベスト16に入った。

11月24日に福山市長杯オープン卓球大会に参加した。中学男子の部では升本がベスト8に入った。中学女子の部では藤が準優勝、徳毛がベスト8に入った。一般女子の部では藤澤(L3)が準優勝、内山と東(L3)がベスト8に入った。

12月20～21日に鳴門市オープン大会に参加した。男子団体では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメントで久米に0―3で敗れた。女子団体では予選リーグで津田Cに3―1、高瀬に3―2で勝ち、決勝トーナメントで北島Aに2―3で敗れた。

12月25日に全国中学選抜卓球大会岡山県予選会に参加した。男子団体では予選リーグで八浜に3―1、芳泉に3―0、総社西に3―2で勝ち、京山に1―3で敗れて予選2位であった。女子団体では福浜に3―1、倉敷西に3―0、山田に

3―1、岡山白陵に3―1で勝ち、山陽女子に0―3で敗れて予選2位であった。

12月28日に瀬戸内少年卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグを2位で通過し、2位トーナメントで今治東に2―3で敗れた。女子団体では予選リーグで菊間・大西に3―1で勝ち、泉川に0―3で敗れ、2位トーナメント1回戦で津島に3―1で勝ち、2回戦で東予東に1―3で敗れた。

1月11日にニッタク杯争奪笠岡市卓球大会に参加した。男子団体では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で井原に2―1で勝ち、準決勝で芳井に0―2で敗れたがベスト4に入った。女子団体では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメント準決勝で大島に2―1で勝ち、決勝で笠岡西に2―0で勝ち、優勝した。

1月24日に岡山県中学生加盟団体卓球選手権大会に参加した。男子団体では予選リーグを1位で通過し、決勝トーナメント1回戦で新田に3―1で勝ち、準々決勝で倉敷北に3―2で勝ち、準決勝で西大寺に3―1で勝ち、決勝で妹尾に3

―1で敗れたが準優勝であった。女子団体では予選リーグを2位で通過し、決勝トーナメント1回戦で西大寺に2―3で敗れたがベスト8に入った。

高卓球部

10月26、27日に県高校秋季卓球大会に出場した。男子団体では予選リーグで瀬戸南に3―0、勝山に3―0、岡山後楽館に3―0で勝ち、決勝トーナメント2回戦で笠岡工業に3―0、3回戦で美作に3―2、準々決勝で水島工業に3―0で勝ち、準決勝で関西に0―3で敗れ、3位決定戦で岡山東商に1―3で敗れたがベスト4に入った。女子団体では予選リーグで岡山東商に1―3、岡山商大附に3―2、笠岡商業に3―0の2勝1敗で決勝トーナメントに進み、1回戦で津山に3―0、2回戦で興陽に3―0で勝ち、準々決勝で山陽女子に0―3で敗れ、順位決定リーグで岡山商大附に3―2、岡山東商に3―1、岡山工業に3―1で勝ち、ベスト8(第5位)に入った。

11月16日に総社市長杯卓球大会に参加した。男子個人では中嶋(U2)と福田(U1)が予選リーグを通過し、福田はベスト32に入った。女子個人では児嶋(U2)

と西岡(U1)が予選リーグを通過した。
11月24日に福山市長杯オープン卓球大会に出場した。男子シングルスでは福田がベスト8に入った。女子シングルスでは西岡が優勝、ベスト8に小見山(U2)と難波もなみ(U1)が入った。

12月22、23日に岡山県高校卓球新人大会に出場した。男子団体では2回戦で高梁に3-0、3回戦で玉島商業に3-0で勝ち、準々決勝で理大附属に1-3で敗れ、順位決定リーグで岡山工業に3-1、美作に3-1、岡山東商に3-0で勝ち、5位で中国大会出場を決めた。女子団体では1回戦で岡山一宮に3-0、2回戦で玉野光南に3-1、準々決勝で興陽に3-0で勝ち、準決勝で就実に0-3で敗れ、3位決定で美作に2-3で敗れたが、ベスト4で中国大会出場を決めた。男子ダブルスでは掛谷(U2)・福田組がベスト16、中嶋・原田(U2)組と奥村(U1)・木下(U1)組がベスト32に入った。女子ダブルスでは見嶋・小見山組と難波もなみ・西岡組がベスト16に入った。全国選抜2部予選では男子シングルスで福田が2位、女子シングルスでは見嶋と小見山と西岡がベスト8に

入った。

1月11日にニッタク杯争奪等岡市卓球大会に参加した。男子団体ではAチームが準々決勝で興陽に、準決勝で岡山工業に勝ち、決勝でBチームに勝ち、優勝した。Bチームも準々決勝で芳泉、準決勝で理大附属に勝ち、準優勝であった。女子団体ではAチームが準決勝で青陵に敗れたがベスト4、Bチームもベスト8に入った。

1月30日、2月1日に全国選抜中国地区予選会(広島市)に出場した。男子団体では予選リーグで新南陽(山口)に2-3、鳥取敬愛(鳥取)に2-3で敗れ、予選敗退であった。女子団体では予選リーグで萩商工(山口)に1-3、倉吉北(鳥取)に0-3で敗れ、予選敗退であった。

2月7日に岡山県高校卓球新人大会(単の部)に出場した。男子シングルスでは中嶋と原田がベスト16、福田と木下がベスト32、掛谷がベスト64に入った。女子シングルスでは西岡がベスト16、見嶋と難波もなみがベスト32、小見山と難波楓(U1)がベスト64に入った。

中野球部 11月22日・23日に玉島の森野

球場などで行われた玉浅良寛杯では、2回戦玉島東中学校に10-5で勝利したが、準決勝船穂中学校に0-0特別延長の末7-8で敗れた。

年末高知遠征では、全中で優勝した仙台育英秀光中学校などと対戦をし、大きな刺激を受けた。現在は、夏季総体へ向けてお互いに励まし合いながら基本的な動作の獲得やトレーニングに励んでいる。

高野球部 1月4日には、新年の練習はじめてとして、毎年恒例である本部参拝を行いました。

冬の厳しい強化期間には、食べる合宿や栄養講義を受けるなど、体作りに本気で取り組んだり、過去最高のトレーニングも行うなど、例年以上にたくましい体に仕上がっています。3月下旬からは春の県大会予選が始まり、予選を突破しますと4月下旬には県大会があります。昨年の悔しい思いを、まずは春の県大会で晴らしたいと思います。

中学サッカー部 キャプテンの藤田諒、副キャプテンの難波 祐希・堀江 健生を中心にチーム一丸となって新チームがスタートした。

9月20日・21日に寄島三ツ山公園で行

われた、支部大会で、対鴨方中（0対1）対寄島中（1対2）対笠岡西中（9対0）対笠岡東中（3対0）で3位になった。

10月18日・19日に寄島三ツ山公園で行われた、地区大会で、1回戦対矢掛中（2対0）2回戦対鴨方中（0対0）PK2対4で県大会には出場できなかった。

11月16日に寄島三ツ山公園で行われた、浅口ライオンズ杯で、対中山中（4対0）対寄島中（1対0）対里庄中（1対0）で全勝優勝した。

12月21日に寄島中学校で行われた、西備地区クラブユース予選で、対里庄中（3対0）対寄島中（2対0）対真備中（6対0）で全勝で1位リーグに進むことができた。

12月25日・26日に百間川サッカー場・旭東中学校で行われた、百間川サッカー大会で、対久世中（2対0）対アクト（2対0）対操山中（5対0）対玉島北中（0対1）対旭東中（0対0）対和氣中（3対1）でした。県大会に出場した学校が多い中、大活躍した。

1月25日に金浦中学校で行われた、西備地区クラブユース一位リーグで、対総社東中（0対1）対矢掛中（4対0）対

金浦中（3対1）で準優勝した。

現在までに、練習試合も含め48試合行ったが、30勝11敗7分け（総得点96点、総失点29点）という結果だった。岡山県一位を目指し、毎日走り続けている。

高サッカー部 高円宮杯U-18サッカーリーグ2014OKAYAMAの結果は次のとおりである。11月16日、対倉敷（1-1）、11月24日、対高松農業（1-4）、11月29日、対笠岡商業（1-0）。

練習試合を次のように行った。11月23日、対東岡山工業（3-1・1-1）対理大附（1-2）・12月13日、対アクト、12月14日、対矢掛（9-1）。

岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会一次リーグの結果は次のとおりである。12月20日、対龍谷（0-4）、12月21日、対水島工業（1-0）、12月23日、対鷲羽（1-3）。

OB戦を1月2日に開催した。各年代別チーム総勢67名の参加があり、初蹴りを皆で楽しんだ。

中柔道部 12月17日倉敷武道館で行われた倉敷武道館柔道大会の男子団体戦に参加した。予選リーグにおいて1勝1敗で敗退した。

2014年12月25日・26日に玉野スポーツセンターで行われた岡山県強化練習会に参加し県内の中学校の選手と練習した。そのうち中2虫明春哉と中1森永慶之は県の強化選手として参加した。また12月27日28日にも引き続き玉野スポーツセンターで京都産業大付属中学校や広島県武田中学校・修道中学校など県外の選手や県内の多くの中学校と合同練習を行った。

2015年2月8日に鳥取県立武道館で行われた中国中学校新人柔道大会に中1森永慶之と中2虫明春哉が出場した。二人がメンバーとなった岡山県Aチームは2位となった。試合前日には、中国大会に出場する各県代表チームとの練習試合も行われ、力ためし刺激を受ける良い機会もあった。

高柔道部 1月18日には岡山武道館にて高等学校柔道選手権大会岡山大会が行われ、高1福島が73kg級個人戦に参加したものの1回戦敗退であった。

中高柔道部 2014年12月29日には納会を行い、また2015年1月3日には本部参拝と初稽古を行った。保護者の方々に手伝いいただき、また10名以上の

OBの方が来てくださり練習にも参加いただいた。

中高剣道部 〆寒稽古〆平成27年1月13日(火)〆17日(土)道場にて恒例の寒稽古を「厳寒に鍛える」をモットーに実施した。日名啓介(中2)、岡本紘太郎、佐伯優真(ともに中1)の3名が皆勤であった。

中剣道部 〆秋季県大会〆11月9日(日)〆10日(月)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、佐伯優真(1年)が個人試合に出場し、3回戦敗退であった。

〆第36回岡山県1・2年生大会〆平成27年1月18日(日)笠岡総合体育館で開催され、男子団体試合で4回戦敗退、ベスト16と健闘した。

中男子バスケットボール部 1月11日、12日と玉島浅口笠岡地区バスケットボール大会が行われた。初日、4チームでの予選リーグを2位で通過し、二日目の上位リーグでは、準決勝で鴨方中に敗れ、夏に向けて、さらに練習に励む必要性を感じた。

1月25日には、玉島浅口笠岡地区一年生大会が行われた。インフルエンザの流行により、6名しか参加できない状況の

中、3位と健闘した。普段から一生懸命に練習に取り組んだ結果が表れた大会であった。

今後も、多くの練習試合や大会に参加し、夏の総体に向けて、努力していきたい。

中女子バスケットボール部 12月14日に岡山市立石井中学校で行われた第18回ALL OKAYAMA WINTER CUP 一次リーグでは、美甘中9―28学園、黒崎中4―40学園、東山中18―20学園、倉敷東中48―18学園で、リーグ2位となり、2次リーグに進むことができなかった。

1月11日・12日と玉島浅口笠岡地区バスケットボール大会が行われた。初日、3チームでの予選リーグを2位で通過し、二日目、真備中17―23学園、矢掛中13―31学園、学園24―12玉島東中に勝利した。今回の大会を通して、インフルエンザの流行の中、体調管理の必要性をしっかりと感じた大会だった。

1月25日には、備西地区一年生交歓大会が行われた。5チームリーグのリーグ戦で行われ、学園17―24真備中、寄島中5―37学園となり、2位リーグへ。笠岡東12―8学園、玉島東4―39学園という

結果に終わった。

高男子バスケットボール部 11月15日から行われた、新人優勝大会備中地区予選会に参加した。1回戦、おかやま山陽に勝ったが、2回戦、シード校の倉敷古城池に敗れ、敗者復活トーナメントにまわった。敗者復活トーナメント一回戦、玉島に勝ち、トーナメント準決勝で倉敷商業と対戦したが、63―52で惜敗した。

12月27・28日に行われた玉島浅口笠岡地区バスケットボール大会に参加した。予選リーグは笠岡工業、鴨方に勝ち、1位で通過。決勝リーグは、玉島、岡山龍谷と対戦した。玉島には勝ったものの、岡山龍谷に敗れ、2位となった。

12月21日には、保護者会主催の忘年会、1月12日には新年会が行われた。新年会には、他校の生徒・顧問も招待し、120人規模の盛会となった。

2月11日に行われた第1回私学交流バスケットボール大会に参加した。Aチーム、Bチームの2チームが参加した。Aチームは、6チームによるトーナメント戦。1回戦はシード、2回戦、就実と対戦し57―34で勝ち、決勝戦は岡山龍谷との対戦となった。昨年末の玉島浅口笠岡

大会の雪辱を誓った対戦だったが、49-43で惜敗し2位となった。ただ、試合の内容は昨年末より大きく成長し、自信を持てる対戦となった。Bチームは、3校によるリーグ戦。倉敷翠松、岡山龍谷に快勝し、1位となった。試合後、優秀選手の表彰が行われ、高2の楠戸邦弘、佐藤武夫の2名が表彰された。

高女子バスケットボール部 11月15日から行われた、新人優勝大会備中地区予選会に参加した。1回戦、おかやま山陽に敗れ、1回戦敗退。

12月27・28日に行われた玉島浅口笠岡地区バスケットボール大会に参加した。予選リーグは笠岡商業、玉島商業に勝ち、1位で通過。決勝リーグは、おかやま山陽、笠岡と対戦した。おかやま山陽には勝ったものの、笠岡に敗れ、2位となった。2月11日に行われた第1回私学交流バスケットボール大会に参加した。女子はおかやま山陽、岡山龍谷の3校の総当たり戦で行われた。1回戦は岡山龍谷と対戦し僅差で勝利した。2回戦、おかやま山陽と対戦し前半は苦戦しながらも勝利し、1位となった。試合の内容には多くの課題が残ったが、これらの結果を励み

に一層練習に取り組んでいきたいと思う。試合後には、優秀選手の表彰が行われ、高1の遠山智子が表彰された。

中男子バレーボール部 新チームとして9月の支部大会では優勝。10月の地区大会でも優勝。県大会でも優勝。この優勝は3年ぶり3回目。

そして、2月に岡山県で行われた中国新人大会で3年ぶりの優勝を狙ったが、第3位という結果となった。

中女子バレーボール部 1月24日に春の中学校バレーボール大会備南西地区予選会が行われ、1回戦笠岡西中0-2で敗れた。当日は選手の体調不良もありベストな状態で試合に臨めなかったが、1年生だけのチームで持てる力を発揮しがんばった。

高男子バレーボール部 12月20日21日に行われた備中新人大会において決勝戦・岡山龍谷高校に2-0のストレートで勝ち、地区1位で県大会へ。1月17日・31日に行われた岡山県新人大会では岡山工業高校に勝ちベスト4。トップ4リーグで岡山龍谷・岡山東商業には勝ったが、玉野光南高校に敗れ、金光学園・岡山東商業・玉野光南が2勝1敗で並び、セツ

ト率・得点率で準優勝に終わりました。この結果、中国新人大会への出場が決まりました。新チームでも全国大会に行けるよう頑張ります。

少林寺拳法部 12月21日と2月11日に行われた岡山県中学校少林寺拳法部合同練習会に参加した。

お詫びと訂正
やつなみ239・240合併号に記載した大会の結果に誤りがありました。6月に開催された岡山県中学生大会において男子単独演武の部で中3佐藤秀紀くんが決勝に進出しました。お詫びの上、訂正させていただきます。

木綿崎ボランテア同好会 1月26、31日、宗教教室にて木綿崎ボランテアクラブ主催で「寒心行」を行った。「寒心行」から「寒心行」と名を改めた。金光校長、佐藤副校長、久保田光盛先生、角南佑典先生、瀬戸信貴先生、佐伯香織先生、村山真生先生、木綿崎ボランテア生徒（田井英里奈、家島彩花、藤田沙彩）が自身の体験や喜びのある生き方について語った。

バドミントン同好会 毎週火曜日に和気舘々とバドミントンを楽しんでいます。

学園だより

進路委員会

12月8～9日、高3では生徒の志望校について詳しく検討し、より良い指導ができるよう話し合った。11日に高1で、12日に高2でそれぞれに行い、現在の学力分析を基に今後の指導方針を検討した。

個別面談

中高の全クラスで、2者あるいは3者で行った。中学校では、2学期を振り返り冬休みの過ごし方について、高1や高2では進路を見据えての教科選択について、高3では進路委員会の結果を基に受験大学について相談した。

終業式

12月22日、2学期終業式が高合同で行われた。

中学入学試験

1月6日、342名が志願していた中学入試が行われた。8日に合格発表が行われた。専願合格者は15日までに、併願合格者は2月12日までに手続きを完了した。2月15日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

た。
始業式 1月8日、3学期始業式が高合同で行われた。校長式辞・高3生徒

(野畑寛志君)の決意表明・生活課より諸注意があった。また、ノルウェーからの留学生ハンナさんが1年の留学を終了し、お別れの言葉を述べた。

街頭交通指導

1月8日から3月19日まで教員が、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

高校県外入学試験

1月11日、38名が志願していた高校県外入試が今回初めて行われた。合格者には14日に合格通知が發送された。

中学生徒会長選挙

1月20日に行われた来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の陽嶽聡一郎君が、副会長には1年の西山大智君と大原綾華さんが選ばれた。

センター試験

1月17・18日に実施された大学入試センター試験には、高3生徒183名が出願し、川崎医療福祉大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、中国学園大学の各大学で受験した。

AFS留学生

1月末でハンナさんが1年の留学期間を終了した。2月6日に

はHRの時間にお別れ会を、学校の送別会も2月4日に行われた。そして8日に帰国の途に就いた。

イギリス短期語学研修

第4回イギリス語学研修に向けて昨年3月7日にかけて11回、校内で事前指導を行った。

進路委員会

1月24日、高3ではセンター試験の自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習

1月23日、中1は高3の進路確定者から学習活動や部活動など学園生活の過ごし方に関わる話を聞いた。1月27日、中2は14分野にわたる様々な職業の方からグループ毎にお話を聞き、これからの進路を考えることに役立てた。2月6日、中3は高校入学後の心構えや教科選択の説明を聴き、それを基に進路を考える機会を持った。

朝の寒心行実施

1月26日から31日にかけて、木綿崎ボランティアクラブを中心に寒心行を行った。参加教員(金光道晴校長、佐藤正俊副校長、瀬戸信貴、佐伯香織、久保田光盛、角南佑典、村山真生) **高校入学試験** 2月3日、推薦入試(専願)と一般入試(専願・併願)が同時に

行われ、それぞれに4名、105名の中学生が志願した。2月6日に、それぞれの保護者宛に選考の結果が通知され、専願合格者は13日までに手続きを終え、15日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。さらに進捗調整のためのスクーリングを、10日間受講した。併願合格者は、3月20日の招集日に手続きを完了し、それ以降に10日間のスクーリングを受講した。

美術館見学

2月5日、中3は美術の授業の一環で総合学習として、事前学習後に倉敷美観地区の大原美術館・民芸館・自然史博物館などを訪問した。そこで古今東西の有名な美術品を鑑賞した。

学校保健委員会

1月30日、校医、やつなみ保護者会、教職員、生徒会の代表で構成される学校保健委員会が開催され、本校の健康実態や保健委員会の活動報告等がなされた。また講師の松浦治療院長 松浦浩市先生から「スポーツ障害の予防と応急処置について」の講演をいただいた。

合唱コンクール

2月14日、中1が小体育館で合唱コンクールを開催した。各クラス課題曲(心の瞳)と自由曲の2曲を熟唱し団結力を示した。

学年集会

2月18日、中2が浅口市民会館金光で修学旅行事前学習発表会を行い、学年の団結を誓い今年度の総括の場とした。

高2芸術選択者発表会

2月20日、音楽選択者は浅口市民会館金光で演奏会を行った。また美術・書道・工芸の選択者は20日から23日まで、それぞれ作品を校内に展示した。

卒業式

2月28日、第67回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、222名の生徒が学園を巣立った。

◇教主金光様のおことば



本日は、おめでとうございます。ただ今、代表の方がお願いされましたように、これからも学園生活で培われたものを大切に、皆さんそれぞれの進路に向かって、世話になるすべてに礼をいう心をもって進んでいかれますよう、祈ってやみません。

教育相談保護者会

3月7日、11名の保護者が参加し、安原こずえ先生を講師

に交流会が行われた。

防災訓練

3月11日、「3.11東日本大震災を忘れない」ために、昨年に続き防災訓練が実施された。地震を想定しての防災で、中学・高校別々に避難した。全体集合の後、黙祷を捧げ、校長の話を伺った。

探究I課題研究中間発表会・SSH「国際化」の取組についての発表会 3月8日、高1探究クラス、高2探究理系クラスおよび中学校の科学系部活動を中心にこれまで取り組んできた途中経過の報告とポスター発表を行った。外部からの参加校は13校、参加生徒数約100名に上った。

お祝い 成田教諭には1月28日にご長男の誕生、園田教諭には1月31日に三女のお誕生、お慶び申し上げます。

お悔やみ 旧職員の妹尾英雄先生には昨年10月23日に、横山鹿之助先生には昨年12月22日に、成田先生の御尊父には1月13日、ご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

教室の窓から

「小惑星探査機はやぶさ2」

2014年12月3日、「はやぶさ2」が鹿児島種子島宇宙センターから打ち上げられた。初代「はやぶさ2」の後継機として開発されたのが「はやぶさ2」だ。初代「はやぶさ2」は小惑星イトカワの探査を目的として、イトカワの微粒子を持ち帰るなど、多くの「世界初」のミッションを成し遂げた。「はやぶさ2」は、この経験を活かしてより確実に小惑星探査を行うことを目指す。

今回「はやぶさ2」が目指す天体はC型小惑星[1999 JF3]だ。このC型小惑星とは、太陽系の始原状態を残す含水鉱物や有機物を含んでいると考えられている。原始太陽系や地球誕生の歴史、海や生命を作り出した水や有機物の起源が残っていると考えられている小惑星だ。太陽が生まれてから、地球などの大きな天体では高温の時期があったために原始太陽系の材料は溶けて残っていない。しかし、小惑星ならば、太陽系がどのような状態で生まれ、変化してきたのかを示す痕跡が残っていることが期待されている。また、私たちのような生命をつくる元になった材料がどのようなものであったのかについて、重要な手がかりが得られる可能性がある。

この「はやぶさ2」は、小惑星の周りを回りながら、表面を散乱した光をとらえることで、水分子の観測を行う。また、小惑星表面の物質の採取ももちろんのこと、内部の物質を持ち帰ることもミッションとしている。表面は太陽風の影響による宇宙風化作用で、元の姿から変化していることが初代「はやぶさ2」より明らかにされている。小型衝突装置から重さ2kgの弾頭をピストルの弾よりも速い時速7200kmで発射し人工クレーターを作り、本来の姿が残っているはずの小惑星内部の物質を採取する。さらに、小惑星表面に着地して調査も行う。地形や重力の計測、有機物の検出などを行う予定だ。

3年後の2018年7月頃に小惑星に到着。小惑星には1年半滞りながら調査を行う。その後、周りを1周以上回りながら調査を行う。その後、2019年12月に小惑星を離れ、2020年12月に地球に帰還する予定だ。実は地球の私たちの元に戻ってくるのは、採取した物質の戻ったカプセルだけで、「はやぶさ2」は地球には帰還せず、次の追加ミッションの旅に出る。東京オリンピックが開催される2020年に「はやぶさ2」は私たちにどのような感動をもたらしてくれるのか楽しみだ。たった今、この瞬間も「はやぶさ2」は、広大な宇宙空間を小惑星を目指して、全行程52億kmの旅の途中にいる。そんな「はやぶさ2」を地球上で応援しながら、5年後の成果を楽しみに待ちたい。

編集後記

創立120年の記念すべき年の卒業式には22名の卒業生を送り出した。3年ないし6年間という彷徨の時期に彼らや彼女たちが多くのことを学園から学び、旅立ってくれたことを大変嬉しく思う。そしてそのことに感謝する。部活動から得た忍耐力や精神力、進路を考える中での人と人の繋がりの大切さ、一生の宝となる友人。さらに多くの素晴らしい思い出を語ってくれたことで今までの学園の目指してきたことが間違いないと感じさせてくれる。この気持ちは未来に繋がる。将来の抱負に国際機関で働きたいという生徒もいた。

実は先日、3月8日「SSHにおける「国際化」の取組についての発表会」が本校で開催され、全国から13校の高校さらには3大学の学生たちが課題研究を英語で発表した。日本の大学で学ぶ20カ国におよぶ海外留学生や欧米のネイティブの先生方の前で堂々と自分の研究した内容を英語でポスター発表する貴重な経験を積んだ。

1年前にこのような場を踏んだ卒業生たちも今後の日本を背負ってそれぞれの立場で活躍できる人に成長されることを願う。

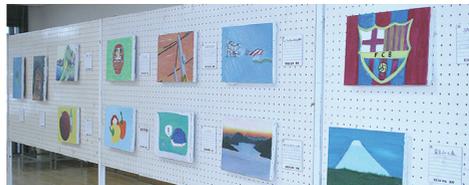
平成27年3月12日印刷
3月17日発行

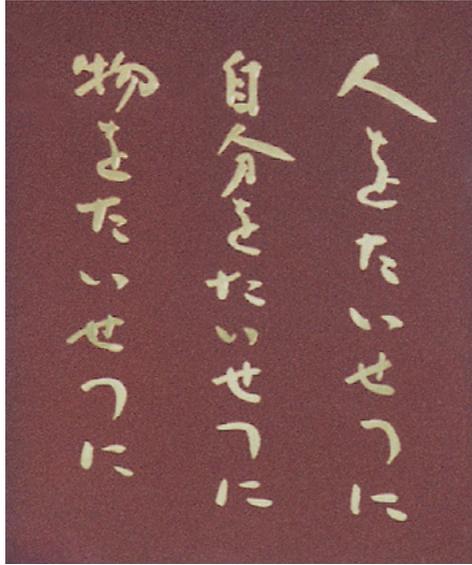
編集者 金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五一―一
玉島活版所

発行所 浅口市金光町古見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会

高2 芸術選択者発表会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net